

富山家譜

共十五卷

壹

家傳

目錄

二百廿一

第七

徳川家達献本

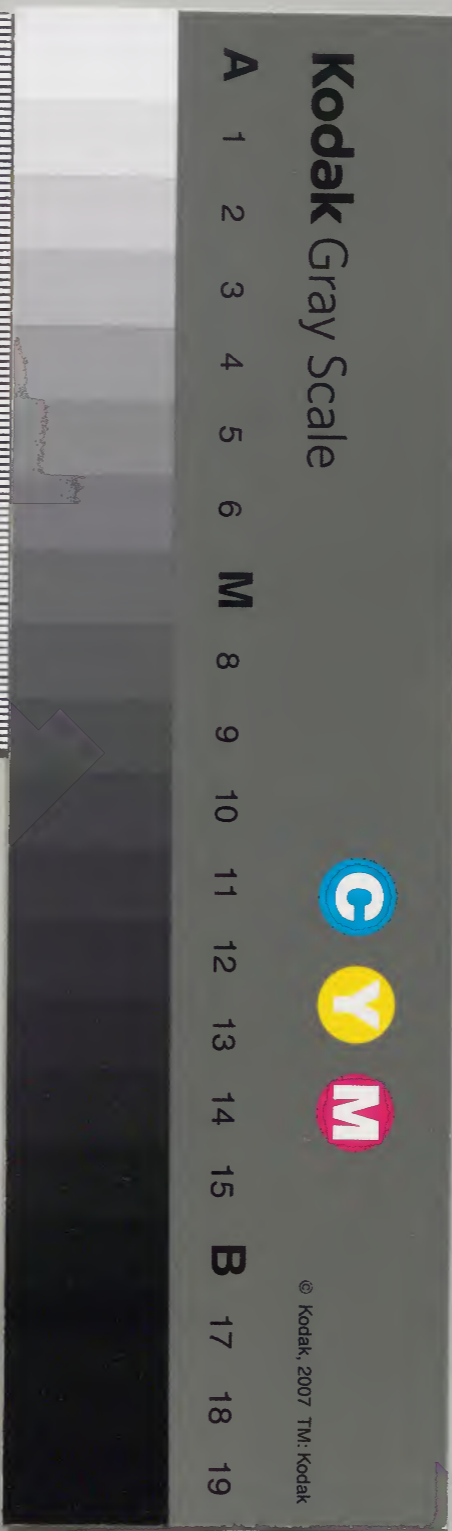
和書  
三三九三  
三三九三  
三三九三

内閣文庫	
番號	和 33993
冊數	15 ( 1 )
函號	157 208

208

内閣文庫	和書
三五七	三三九三
六	一五三
	(一)

157-208



白山家譜目錄

同 222

石井

皇朝御紀

一之卷 元弘元年

一 畠山卜始稱田中岩松同  
 一 笠置主上臨幸笠置攻之事  
 一 元弘正月新帝正慶改元事  
 一 月楠赤坂攻淺海安多事  
 一 八月赤松播州旗上事

一 元弘元八月主上北条高時入道ヲ七サ思立事二  
 一 楠赤坂山楯籠旗ヲ上ル事  
 一 三月北条越後守仲時同駿河守時益上落成敗勢行西波羅  
 附大塔宮紀列ヨリ打出吉野楯ヲミラセテ  
 四丁



一 同年東国勢午分正月  
 一 三月先帝德烈配所直  
 一 并道中行隊ノ波  
 一 四月廿七日赤松ヨリ八幡山寄軍ノ完  
 一 名越尾張守打先高氏築村引越  
 一 六月上旬主上都還事  
 一 九月鎌倉持頭ヲ被置當今第八宮  
 一 足利直義執權

一 五月七日高氏築村ヲ打立京都寄ラレ  
 附新田直義貞閑東退治  
 一 八月高氏一尊ノ字ヲ賜正慶二年正月建武  
 一 改元二月諸將忠賞被行  
 一 九月尊氏室成寺建立  
 一 八月三日夜大凡大佛殿棟木折軍兵百餘人死  
 一 遠江ノ古ノ里ニ戰數度ノ戰  
 一 敵方七十宗徒ノ合

一 建武二月中前代蜂起名越太郎北条源時  
 一 黨鎌倉君攻上尊氏打午下向  
 一 十月新田足利面家確執ヲコル  
 一 大塔宮ヲ殺奉ル

一 直義偽テ論旨認尊氏諫言セテ  
 一 直義偽テ論旨認尊氏諫言セテ



一 十月一宮親善東列管領トシ義貞一族  
 一 直義偽テ論旨認尊氏諫言セテ

鎌倉下向廿五日矢橋川戦手越戦歩

十三

マテ宇都宮佐々木歎降参ス

正月十日直義カクランテ三井寺將軍味方ル

二月十日將軍横津ヲ染師九京都上セテ

持明院殿院宣ラタマフ出戦兵庫ヨリ

將軍丹ヲ西國一落多良濱戦鳥杉葉蓋直

曹トラス松浦神田味方ニ降参ス

六月二日首實檢二日山門攻

七月十日山門ヨリ京ヲ攻年号ノ事

八月十三日東寺合戦十昔豊仁親王御即位

十月尊氏大納言ニ任セラル

同四年三月越前金カ崎ノ城ヲツル

十月奥列國司新田德壽丸鎌倉攻ヲス

歴應二十日直義十六羅漢ノ像ヲ高野山

金剛三昧院納奉ル

箱根竹下戦

同三年丙子年正月尊氏大勢ニ一落大渡ヲ十七

亥負ニ向赤松信濃守御教書ヲ戴ニ播列下ル

廿七日山門ヨリ神樂足ノ城ヲ攻ヲトス

廿九日將軍丹波築村一落賜

四月廿八日尊氏太宰府ヲ打立十八日出舟

五月一日ヨリ三日嚴島参籠結願日持明院院宣

下ル廿五日兵庫浦將軍者本間遠兵事

楠正成方死

十月山門ヨリ京還幸

十二月先帝吉野ニカレ出玉フ

同五年九月奥列頭家安倍野ニホル

壬七月亥負北國ニ射ヲコサル

八月先帝吉野ニ崩御

十月歴應改マレ十月五日尊氏正二位

二之卷 歴應元ヨリ貞治六

一 尊氏威光日々増

一 同二年六月國清道ヲ沙弥道哲トス

一 十月紀別玉置庄司畠山伏ス

一 亦玉置畝トナリ吉川表ニ戰草鹿ツホヒ旨

一 京都ヨリ加勢ヲ敵退散

一 十月廿日鎌倉勢武別府中ニ義貞

ヲ追落ス

一 十月自和改元同二年一月畠山國清修理大夫

一 轉任セラレ同義深世尊寺行尹卿女御嫁

一 同四年吉田罪好法師ノ事

一 六月十日四茶河原田樂見物ノ事

一 八月二日直義公師直ヲ打ツトクミ玉

一 同六月畠山國清河列石川著陣畠山直宗ヨリ

一 師直カク委ツル

一 觀應元年二月廿日改元右兵衛佐貞泰十

一 宰少貳頼高カ智トス

一 同二年正月惠源禪門七日八幡山陣トシ

一 二月十日將軍カクテ光明寺ヨセ玉

一 御影ノ松原十六度ノ合戦

一 丁一 康永元年十月畠山國清紀別守護

一 丁一 九月畠山ヨリ山岳入道ヲ紀別守護代トス

一 草鹿ノ城ヲカル

一 同三年八月新田義貞武別旗ヲ上ル

一 廿五日畠山自代山田八郎カ香津山ノ城ヲ

一 七九山田八郎生捕レ其日首ヲ打ル

一 同四年紀別貴志智藤降参ス殘黨山中カル

一 聖禪寺ノ尊氏公直義公御参詣諸大名御供

一 同二年六月畠山義深伊勢物語ノ尊氏公

一 御自筆并領

一 同五年楠正行打死正月十三日高師直ヲ其

一 附リ妙吉ト云者ノ事

一 八月十日直義方師直諸大名ワカル

一 八月畠山直宗上杉伊豆守越前一配流米光勝

一 心カハリ西人自害

一 十二月十日惠源禪門都出吉野殿ノ合休シ玉

一 畠山國清禪門ノ方一参ル

一 鎌倉執事高師冬打ルハ八幡ヨリ坂元ヨセトス

一 松園ノ衆中切腹ノ覚悟ヲ有ルル命鶴丸參將軍

一 御兄弟和睦高家亡畠山直宗關東一下サル

一 三月音宰相將茂詮卿入洛七日將軍御父子 十三  
 錦小路殿下御和睦  
 一 高倉殿鎌倉君下り玉島山國清將軍御方参り 十三  
 高倉殿鎌倉君全下り方上杉左馬頭慶取奉り 十五  
 上野逃上杉引及禪門藤下ニヒル  
 一 同三年正月將軍御兄弟和睦ヲトシテロフ 十六  
 六月御兄弟ヲシテ鎌倉君入玉  
 一 五月武州千差原合戦新田方打マケル 十八  
 八月京都主上皇南方賊徒去五月下り奉り 十八  
 公深宮即位ナシ奉ル  
 一 島山清美鎌倉地圖相別國容具アツサレ 十六  
 全島山國清ハマヒラセラル  
 一 同三年三月相別河村城新田美興同美治ヲモリ 十九  
 元フ攻マツス基氏公執事トシテ島山國清鎌倉  
 ノサレ新田全類ヲ尋子サケル  
 一 二月島山美深百暮方江州將軍御陣付カレ 十九  
 細川頼之不意ヲ折留山名ヲ追退  
 一 同五年月延文改正月日 二十  
 一 三月島山國清入道セラレテ道誓言ト 二十  
 一 同年三月日美與鎌倉攻上武州ヲ退陣 二十

一 同三年二月筑紫探題雨池ホラテ西國皆々敵也 二十  
 島山國一人味方殘ル  
 一 六月竹澤笹田ト云々義興上ル 二十一  
 一 十月菊池島山戰久國三宿城戰ホラケ 二十四  
 山ノ奥引  
 一 同四年二月島山道誓言伊豆國ニ寺ヲ立 二十五  
 一 同廿日不動詣ル日矢邊下山本トシテノコト 同  
 一 同九月島山入道上洛セラヤ十月大軍上洛 二十七  
 一 十月京着見物ノ人多ク 二十七  
 一 四月廿日紀州最初カ峯ニ敵アリトキヨ島山美深ヲ 三十一  
 大將ト味方ホラケル仁木美長一人味方ノケヲワラ  
 レケル杉山國房敵ヲカクルト旨味方勢和佐山ニ  
 著越知降参リ竜門山攻落ス  
 一 同五月三日赤坂城ヨスルト廿八日落城 三十二  
 一 六月南方敵又打出ト急ツツル京勢天子手付 三十四  
 一 同六年三月晦日康安ト改メラル 三十五  
 一 島山入道ノ志上上人上京ノコト 三十六  
 一 宇都宮春元カ娘ノコト 一  
 一 七月惠源禪門晦日亦京都ヲ退去北國下向 十三  
 一 八月十日高倉入道退治シテ將軍江州御下向 十三  
 一 九月廿日高倉入道退治シテ將軍江州御下向 十三  
 一 十月將軍鎌倉君登向十月廿日駿州薩埵山 十五  
 陣トリ十二月由井浦原合戦高倉殿伊豆山御  
 引玉  
 一 二月廿日直義美死セテ新田美宗上野國旗ヲ立 十六  
 一 五月南方主上八幡出張 十八  
 一 九月廿七日文和ト改メ 十八  
 一 文和二月山名美詮公追マツテ西國ガレ 十八  
 一 九月廿日盡工可羽上落ス 十八  
 一 十一月山名時氏足利高經攻上ル 十九  
 一 同四年正月十日將軍都御ヒラキ主上江州武佐寺 十九  
 一 入セ玉島山美深關東ヨリ馳ホラル 十九  
 一 三月西陣合戦互ツカト直冬京ヲ引 十九  
 一 同年二月新田美與同美宗同美治越後ヨリ鎌倉ニ 二十  
 押マツル武藏上野ヲトテ戰ホラケカケラレ引 二十  
 一 四月廿日尊氏公病死 二十一  
 一 五月美與武州起テ竹澤敵宗宣美興ヲダケル 二十一  
 一 八月角仙ノ人ノ七月廿日渡リテ美與ヲ自害ス 二十三  
 一 附リ江ノ兵ノ死并入間川雷火焼ル 二十三  
 一 十月美詮公將軍職任セシメ宮方ノ全類諸所ヲ有 二十五  
 一 鎌倉京都七物騷ル 二十五  
 一 七月島山入道新田ノ全類尋得ル 二十六  
 一 道誓言未味真砂基氏公方マヒラセラル 二十六  
 一 十二月將軍二十日京都ヲ立テ尼カ崎ニツキ玉 二十八  
 一 同五年二月十日島山入道津々山著陣楠下戰 二十九  
 一 廿五日島山美興六千ノ勢加リ天王寺陣シトラル 二十九  
 一 十五日曾湯川一族島山ノ降参ス 二十九  
 一 河内竜泉寺城落ルト今川佐々木平岩城 三十二  
 一 攻メヲトス 三十二  
 一 七月仁木味方人々ニツクシテ聞出將軍申上 三十四  
 一 將軍西山谷堂落ツセシメ八月島山入道關東へ 三十四  
 一 下レ島山入道鎌倉基氏公謀叛ヲ進メラル 三十六  
 一 十一月東國本名島山入道ヲラムルト島山入道伊豆ヲ 三十六  
 修禪寺ヲ城ニテツキ玉  
 一 九月基氏公ヨリ御免御教書ヲ島山入道至リ十日 三十八

ラル次第無勢ニナル

十月畠山茂親世日如意山ヲ病死

甲

降参セテ是タカリユキ日藤沢ノ落ル  
即後落去道ニテ多クナル道喜提山ノ平去  
廿九日自治ト号ス

自治二年正月義詮公大納言任セラル

甲

三年二月畠山茂深將軍御免廿八日上洛

甲

九月畠山道ノ末子日野若茂深ノ

甲

七月義詮公從二位叙セラル

タイマン即從次弟ノマツル

甲

同四年八月斯波義將執事職任所領五十分  
二分ナサレテ御免ノ譜請ヲ大名殿閣造セテ  
道朝越前引退松山ニモリ子息治部大輔  
栗屋ノ城ニシテ

十月斯波道朝近邊ヲ掠畧ニ北国ヲ折

甲

新没入道松山ノ病死子息恩免ノ願九月  
御省免ノナサレ

シガント企京ヨリホテ下ル

甲

同五年三月京都執事佐々木道詮任セラル  
是モ私ノ一多ク瘵止セラル

畠山茂深越前能登兩國ヲ王

甲

九月申日將軍御不例次日重セラル付大名十人  
諫文捧細川頼之ヲ執事職任セラル

同六年正月佐々木道詮又執事職被成ル

甲

十二月義詮公七日薨去シテマフ頼之私曲ナク  
執行ル

鎌倉基氏公諫文ヲ將軍捧テ細川頼之ヲ  
執事職任セラル

甲

同二年四月楠正儀降参

諸將八百京折立

甲

九月斯波義將桃井直常越中国折敗ル

九月畠山武国薩列青塚原戰義滿公ヲ

甲

同四年二月今川了俊九州探題トシ

御感狀ヲ賜ル

甲

同六年十一月九列成敗義弘被仰下ル

同五年三月今川了俊下菊池ノ戰菊池ヲ

甲

同七年三月廿日御出馬海陸同廿日備前ニ

御着四日五日浄土寺御幸廿日安藝云御立

甲

二月引下ニ面々ノ家ノ紋ヲ可置クトナリ

同月朔日筑後府戰廿日高良山ヲ攻

甲

九月廿日高良致九州味方因賞ヲ行ヒ

菊池降参ス

甲

同七年八月朔日丹波国民將軍行テ秋ノ十一

天下太平慶賀ヲ行テ猿樂ノ

甲

同三年六月畠山基国教圓上人四書五經ヲ

永和元年辰三月畠山茂深飛驒國ノ曾我秀文ヲ

甲

同二年六月畠山基国教圓上人四書五經ヲ

三卷 應安元戊申年ヨリ 明德四ニイタル

甲

二月日鳩方峯八幡社ヨリ龜多ク出変メ

四月吾義滿公御元服習音八幡宮ニ社参

甲

同二年四月楠正儀降参

同三年四月楠正儀降参

甲

三月廿日高良致九州味方因賞ヲ行ヒ

同七年三月廿日御出馬海陸同廿日備前ニ

甲

御着四日五日浄土寺御幸廿日安藝云御立

同月朔日筑後府戰廿日高良山ヲ攻

甲

九月廿日高良致九州味方因賞ヲ行ヒ

菊池降参ス

甲

同七年八月朔日丹波国民將軍行テ秋ノ十一

天下太平慶賀ヲ行テ猿樂ノ

甲

同三年六月畠山基国教圓上人四書五經ヲ

自治  
六年  
十月  
平記  
終ル  
自文  
保三  
年  
五十  
年也

召ホ武若小路新館金花鳥ノ故采セラル

一 同四年二月畠山茂深南都壽栄房ヲアサ  
ル

一 同二年申四月山名茂理紀伊國ヲ賜ル

一 永徳元西七月將軍内大臣ニ叙セラル

一 同三年亥十一月日大地ニ大雪久シキモガレ

一 同二年畠山基國土佐光持四子障子ヲカセ

一 嘉慶元卯七月熊木時亂大カヲ畠山基國

一 献上

一 九月義滿公東國御遊覽

一 十月畠山基國南征討使トナレ河内國ヲ被下

一 附若江飯盛城ヲ梅テ八尾竜泉砦ヲ築ク

一 降参人々多ク何レモ懸命ノ地安堵ヲタハル

一 同十月遊佐直好ヲ河内國守護代トシ畠山基國若衛

一 門督ニ任セラル

一 同二年十月山名氏清宇治紅葉ヲ御遊覽ノタメ

一 義滿公ヲ請待シ淀ニ不快ト申淀ニトマリ不参ノ

釋サセラル

一 康慶元未月高曾管領細川頼之讚列

一 退執事身トナル斯波茂將管領トナル

一 十月二日畠山茂深逝去

一 同二戌正月山名氏清赤坂城ヲ追落シ

一 泉列ヲ被下ル

一 至徳元子正月去年雪消半馬死日本飢饉

一 同三年三月坂ノ平治玉津島参詣ノ

一 附ノ佐伯ヲ行アフル

一 同辰八月大樹義滿公玉津島御参詣

一 楠正勝平尾ヲ山名ト戦正勝亦マケ引

一 康慶元己六月畠山家臣遊佐師光カ娘出雲

一 尼子光久ニ嫁ヌ

一 九月義滿公高野山御登山十月畠山基國河内

一 圖八尾飯盛龍泉ニ城圖城王ノ方ヲクラル

一 明徳元壬二月畠山基國繪師ヲカハフル

一 廿九日尊氏公三十三周忌ノ

一 十二月十九日丹後國ヨリ山名滿幸謀反ヲ告河内國ヨリ

一 山名氏清謀反ト告山名氏冬京ヲ退

一 同十月廿日門間太郎カノ船田隅屋南家ノ

一 軍書畠山家ノ傳ル

一 同三申正月四日冬軍忠ノ恩賞ヲ行ル

一 畠山基國ハ山城國守護職ヲ賜ル

一 附リ熊木高山同民部亦死ノ

一 同長ノ氏ノ

一 山名氏清内室自害ノ

一 山名右馬頭泉州土丸ノ城ヲ打死ノ

一 三月畠山基國温井遠種ニ計策ノ

一 船田兵道ノ深理ニ卷テ畠山基國奉ル

一 河田宣助執事小野兼自ノ劔戟ヲキタフ

一 并葛城ノ入安内ヲ知ル

一 四月基國近々ノ用意ノ

一 五月廿日畠山基國御出加馬河列ニ入玉

一 十早攻

一 八月將軍一寺御建立御参詣御供ノ次第

一 七月片岸權三父ノ歎ヲ打

一 同廿日將軍御軍畧ノ

一 廿廿年分ノ山名紀伊ヨリ打出十八日山名清著

一 丹波國ノ人々ニ条口ハ馳参テ山名滿幸畠山ト

一 内野戰滿幸丹波ノ落ル山名茂教大内茂弘大宮テ

一 折負ル山名氏清モ打死ス軍ハ静マリニケリ

一 山名茂理紀伊合戦

一 大内茂弘正月七日京立紀列ニ折入

一 二月山名茂理次第カ尽廿五日清水浦ヨリ

一 伊勢ノ落ル

一 四月小野兼自河田宣助ニ大葛城案内ヲ見ル

一 温井大足片岸定平ノトナル温井遠理潛ニ基國

一 一書ヲ奉ル

一 六月二日畠山基國觀心寺ヲ立若江障陣アリ

一 安間正理降参

一 四年酉四月斯波茂將管領ニ任セラル

四ノ卷 應永元ヨリ同世四マテ

九月義満公日吉御参詣ノ一

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

一 十二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

二 昔京ヲ立奈奈道水越道ヲ止メ城ヨリ大矢ヲ射テ

柳營ヲ相固トナリテス斯波義重武衛トナリ

富山基回細川頼之四位少将ナリ廿八日富山基回

京ヲ立廿九日河列著

一 同三月南禅寺林芳ヲ河列メサレテ富山基回香盧

峯ヲ相相ヲ撰写サセラル

一 分林芳ヲ富山メサレテ香盧峯ノ因縁ヲ描セラル

一 清水谷實秋御ヲ頼詞書

一 十月河列佐備善秀院ノ一

一 同五月富山基回管領ナリ玉ノ三管領トシテ

一 岩一色赤松京極ヲ藏下定メラル此外十二段職任配

一 當天下ノ政務ヲ執行セラル

一 十月八日將軍東寺ニ御膳ヲ向ラル八幡御留陣

一 斯波細川富山其外諸大名打キ廿九日泉列著

一 同七月正月十日大内退治ヲ勸賞ヲ行ヒ細川滿元ハ

一 和泉國ヲ賜リ富山滿家ハ紀伊國ヲ賜ル云徒ノ

一 首悉ク梟セラル

九月義満公日吉御参詣ノ一

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回

同二月楠和田平金剛山トリ登ル富山基回



一 同廿三月紀列有田郡戸屋山ヲヒラキ一城ヲ  
十一 六月河列都留山ニ城ヲキツカル

キツク畠山定回松倉満與ツカル  
紀河泉ノ用ヲ助ク

一 同九年九月紀列隅田ノ松岡能範基國公申  
一 同十未八月和紀堺川尻九万太云強カクモノ  
数千人山中ニテモリ処々出狼藉ヲ

上隅屋正道召出サル  
ヒツケシ畠山殿ノ註進ス因光重ヲセラレ

一 十月和列筒井頼快死ス  
則退治ス河列田井ノ庄光重ニ宛行ハル

一 同十申正月將軍義持ニ年始大黒繪  
畠山満家被下

一 同十二酉正月斯波義重管領ニ任セラル  
一 同十三戌二月隅屋入道ノ一

一 同十四亥正月廿六地震処々破却畠山ヨリ  
一 同十五子正月十七日畠山基國遠行

河列紀列金剛山ノ寺社テ天下安全御祈禱  
一 二月八日大樹北山ノ亭ノ行幸ナリ讃名  
義ヲ尽御供

一 四月前將軍下ノヨリ御不例五月六日義満公  
同十六丑二月河列常光寺地藏尊ノ一

御逝去九日太上天皇ヲ贈叙セラレテ返納  
附西御又五郎カ一

一 六月西御又二郎畠山満家近臣召ツカハレ  
同十七寅六月畠山満家ヲ管領ニ任セラル

一 同十八卯九月飛彈國司打手京嶋城落  
同十九辰四月河列疫癘ス他卿他郡ニモ頭上ル

一 同十九卯九月飛彈國司打手京嶋城落  
同十九辰四月河列疫癘ス他卿他郡ニモ頭上ル

一 同二十月小山悪四郎隆政奥列田村ガリ  
一 同二十子四月泉列室満寺ト生滝山トイフコノ

一 居謀反ヲ企上杉氏憲ヲキツカハス隆政  
一 畠山満家管領ツ十月細川満元任セラレ

一 一人ホナサレ何因共ナク落行ケリ  
同二十子四月泉列室満寺ト生滝山トイフコノ

一 同廿巳六月筒井亦出十市明山方野中尾上  
一 心越知慈明寺ヲホメトス畠山ヨリ宇野ノ留野

一 アツカハス早速和儀ス  
一 同二十三申四月越幡六郎執事居ノ一

一 同廿二未七月將軍日吉ニ御参詣  
一 五月持氏公上杉憲基ヲ執事トセラレ

一 八月春日ニ御参詣  
一 上杉禪秀持氏公伯父新御堂ノ満隆公ニ

一 同申十月將軍ヨリ關東出二族川越佐竹一家  
一 十月上杉禪秀数万奇二日持氏公ノ御処ハ

一 千葉(御教書ヲ被下ル畠山満家承リ將軍  
一 謀反スム

一 ヲリ鎌倉(打手下ル一  
一 同十四酉正月持氏公上方勢ヲエ七日鎌倉ニ

一 同十二月上方勢駿府有リ七日藤澤ツク  
一 打入満隆同持仲禪秀皆自害シ治ル

一 八列ノ人々馳参リ  
一 二十六亥七月大明呂淵カ一

一 同十五戌二月畠山満家左衛門督ニ任セラレ  
一 同九月上ノヨリ大樹御不例十九日ヨリ御祈禱

一 從四位上ニ除セラル  
一 呪咀人アラツル一

一 二十七子二月河内ヨリ縁毛ノ龜ヲ奏上ス  
一 三十子二月義量公御任職ノ一

一 二十八子八月畠山満家管領ニ任セラレ  
一 三十二巳正月二十七日義量公逝去ノ一

一 二十九寅上皇石清水行幸義持公供奉  
一 四月義量公近士御父義持公ニ并謁ス管領ハ

一 三十一辰四月廿日上皇相国寺ニ行幸義量公  
一 畠山満家

一 供奉  
一 八月畠山満家雉髪ノ道端ト号ス

一 三十三年四月紀列隅田一族畠山ノ恩ヲ感スル一  
一 十一月畠山道端諫奏ノ一

一 三十四未十月赤松持貞出奔ノ一持貞自殺  
一

一 十一月畠山道端諫奏ノ一  
一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

五ノ卷 正長元ヨリ嘉吉三終

一 正長元申正月七日頃白ヨリ義持公御不例 二 七月今上皇帝御心地例ナラス

日ニシテ重セタヒ十七日畠山入道石清水ニ 儲君ヲヒマサシヨリ彦仁親王ヲ迎奉ル

冬御養良君ノ御闈ヲトラルハ願文ノ一 廿日常今上御御ナリタマフ

御闈ニ度及天台座主吉蓮院門主玄圓 一 畠山入道ノ御屋九月十三日逝去ノ一

大僧正ゾ上ヨリトシヨリ閑東ト不和ノ一 一 十月斯波義淳管領ニ任ラル

一 同二画二月年号永享ト改ル 一 同小倉殿謀反企ノ密談ノ一

一 三月朔日義宣公御元服十二日九馬頭ニ 一 十月下小倉殿内通ニ南方ニ換ラフル

任セラルト廿三議兼九近衛中将征夷大 畠山ヨリ打手ツカハサル宇智ノ郡御靈ノ社

將軍ニ任セラル御名ヲ義教ト改メラル 本寺堂不残焼失ス

一 五月畠山入道々端頭風河列八尾浄光寺 一 十一月小倉殿御謀反アラハルノ一

地藏尊御リシヤウノ一 永享二戌十一月十日常光寺堂満作畠山

一 七月廿日畠山入道八尾常光寺矣多詣 入道參詣ノ一

一 同四子九月義教公畠山御遊覽ノ一 一 同三亥三月畠山持国從五位上佐衛門佐任

一 同六寅三月大和筒井頼英男子ヲラケシ 一 同五丑九月奥羽ノ探題畠山持泰鷹鳥歎ク

一 同七卯十月將軍ヨリ三管ノ人々唐扇賜ル一六 一 同八辰二月大和群盜処々起ル畠山ヨリ定後ノ

一 同九巳七月義教公ノ同明宗末宗丹カノ同報上 一 同十午四月持氏公ノ上杉憲実諫ルノ一

一 同十一未四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

一 同十二申四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

一 同十三未四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

一 同十四申四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

一 同十五未四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

一 同十六申四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

一 同十七未四月畠山持国ノ吹拳セラレ土佐廣周 一 同八月上杉平井引京都ヨリ台命ヲ下サレ

御繪所ナル

一 同五月豊瀬平産後、富山小次郎國賢ト申  
セシ此ヲ一タナリ

一 同六月廿日富山入道々瑞遠行ノ

一 同十二月車國結城氏朝退治、幾内ノ  
軍勢多ク下ル亦南朝余類跡部楠其外

蜂起大将一色直信ヲ武田信賢、竜門山ニテ  
打トル依之悉ク落ウセル

一 同六月富山持國左衛門督ニ任セラレ後四位ノ下  
叙セラル

一 同八月和列多武峯、南朝、余黨集リ宇多  
越知難美ヲヨメ富山持國、命ヲ蒙リ、終向

九月二日ヨリ戦跡部楠帯刀打死、武峯  
大衆降参ノ

一 嘉吉元年九月播列京ヨリ御加勢下ル赤松性具  
自害シ白旗城落ル

一 同二月廿日富山持國入道ニテ徳本ト号ス

一 同十月伊勢國司ト神路山ノ神人ト確執ヲナリ  
凶事及ントス富山ヨリ使者ヲ以和解サセラ

一 同七月廿日將軍美勝公並死シタマフ  
御令弟美成公八歳ニテラセタマフヲ君ト仰奉ル  
小栗宗丹カ子僧トナル

一 同九月今度鎌倉ノ騷動ヲ幸トシ親列和列ノ  
南朝亡民ノ余類蜂起ス富山入道出馬コトク  
ホシツメ義教公御感賞ヲ賜ル

一 同十月持氏公降参ノ

一 同三月持氏公自盡スベキ旨被仰下サル

一 京師土藏カ、小栗宗丹禪僧ナル

一 富山ノ方ニ参娘豊瀬ニテ

一 嘉吉元年二月富山持國從三位叙セラル

一 同四月結落城持氏公ノ御子春王殿安王殿  
十九日美濃ノ垂井ニテ害セラル

一 將軍美教公驕奢ニシタマフ

一 同六月赤松入道性具將軍美教公ヲ請待ニ  
打奉ル

一 貴兒美勝公ヲ大樹トナシ奉ル

一 同八月赤松退治ノ論旨下ル播列ノ折手嶮坂ニテ

一 同八月曾管領細川持之遠去

一 富山徳本管領任セラ

一 同三月五月朝鮮人來ル

持氏公ヲ追討ナサル

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

十八

六卷

文安元ヨリ寶徳三マリ  
享徳三マテ

一 正月廿義成公畠山徳本ノ館入御ノ一  
十八日大内裏ノ三越打ニ依テ畠山入道  
四足ノ門ニ参候ノ一

一 八月南朝ノ餘類大内裏ニ入三種神室ヲ盗ミ  
トル未紀列和列ノ餘類クタキノ一

一 同二丑十月閑東故丸馬頭ノ季息永壽王殿ヲ  
管領トシ上杉憲實ノ子息右京亮憲忠ヲ  
執事トシ山内ノ居館シタツノ一

一 同三寅十月石垣左京太夫持秋京ニテ  
逝去ノ一

一 同六月美教公七回忌ノ御法事ニ天竜寺  
出火ノ一

一 同十二月紀列浅尾吉川ノ鶴カ瀬達多カ背  
皆々落城シ圓滿院ノ宮ホレサセタツノ其外  
不殘降参スルノ一

一 同四月美成公御元服ノ一

一 寶徳元己二月畠山族普代幕下一族ノ  
主領ノ輩其姓名ヲ改誌サルノ一

一 二月十三日御波汰ハジメト書ヨリノ一

一 三月浴中大小豆フルノ一

一 九月南朝七款ノ未孫蜂起京極細川  
追捕ノ一

附リ畠山幕下今度ノ一族ノカノトモカラ  
タツ子斬罪セラレノ一

一 十月細川勝元管領トナリ畠山入道  
カワレノ一

一 同四卯二月紀列ノ西後退治ノ一

一 同五月富樫二郎ト安高ト加賀国守護職ヲ  
ロンスルノ一

一 同十月紀列逆徒蜂起蚊川ノ城攻ヲトス  
ノ一

一 同丑辰正月廿七日圓滿院ノ宮御頸實檢ノ一

一 同七月十日畠山佐渡守政成卒去リノ一

一 同二年二月京東西ノ商人酒麴賣買ノ争フ  
ノ一

- 一 同十一月畠山徳本再ニ管領ノ一
- 一 同二月伊勢国司北畠殿ト神路神人ト爭論  
起畠山入道ヨリ使者ヲモツテ双方ヲ制示サセ  
ラル一
- 一 八月三旨南禅寺ノ僧香林新ニ真乘院ヲ建立  
スル一
- 一 同三月平次春畠山執事職ニナル一
- 一 四月江戸国将カ一
- 一 九月徳本ノ家人ト京極ノ家人ト喧嘩ノ一
- 一 同二月四月和列筒井須英死去一男須秀  
ト号
- 一 六月櫻井カ一  
美成公美政ト改メラル一
- 一 四月畠山政長徳本入道ニ追出サレ細川勝元ノ  
許ニ徳本將軍一政長誅伐ノ御教書ヲ申  
受ル一
- 一 十二月鎌倉ノ管領成氏公執事上杉憲忠  
廿七日ハタル、上杉ノ類大勢ヲ催スル一  
成氏公折マケ下総一落タマフ香嚴院殿遺俗  
ナル一
- 一 四月西京ノ町人トモ己カ家カドク放一
- 一 多人焼死ル一
- 一 五月美成公自筆白鷗ヲ放ツルニ  
徳本入道タマハリシ一
- 一 六月石清水神人ノ一
- 一 九月天竜寺成就昔日供養將軍御参詣ノ  
一
- 一 享徳元申二月徳本養子セラレ永言子二年  
實子誕生三月養子政長右衛門佐轉任  
セラレ實子美就右衛門佐ニ  
一
- 一 十月細川勝元管領トナリ徳本ニカレ一
- 一 同三月正月武家榮耀日ニ増一
- 一 徳本政長ヲ贈リ四月徳本政長ヲ追出サレ一是年大乱  
ナル一
- 一 八月御堂処美就ヲ具足負シタマフヨリ岩  
宗全入道ヲ、ニイキドラル畠山ノ家人ニワカレ一
- 一 廿日山名細川徳本ノ館一推寄スル一

シ関東下向ノ一

七之卷 康正元ヨリ延徳三ノテ

一 正月十日成氏公ト上杉ト相列戦成氏公ホテテ 二 七月畠山義就同苗政長和列九度川

古河渡城ヲキツキ楯コモリクニテ 合戦ノ一

一 八月公方ヨリ双方和睦上使ニテ兩陣世ニ引退 二 同子正月義就菅田ニ在任ニ勇士招レ

先畠山兄弟死事ニ治ル ケル一

一 長祿元丑五月和列筒井順秀ニ男出生 三 同二寅三月畠山政長為九次貞任郷ヲタリ

一 同二卯五月義政公石清水御参テ 三 彦爪孔明カ出師ト表ヲ書セラル

一 七月畠山政長十一月名哥ヲ編集セラル 三 寛正元辰九月御臺処畠山義就ヲ

一 同二己四月河州ノ寄テ退屈京都ニキコテ六 九 譏シ玉徳李家督不残政長被成下

加勢下ル 廿日義就河列下ル 一

一 同十月金胎寺ヲ落城ノ一 九 一 閏九月義就亦キヲ政長命セラル 五

一 同三年二月義就鷹殿陳シテ行隅屋 十 一 十月音政長和列竜田勢込義就逆ヨセ打肩

一 藤九郎トリカス一 金胎寺ニ入ラル一

一 一月嶽山双方退屈隅屋国敏流矢死ル 土 一 同十月嶽山寄テ遠攻ノ一

一 六月政長義就ヲ討テラシテ死シテモ高野山 一 一 五月義就嶽山ヲ落テ高野山ニ引入一

一 寄セシセシテ京ヨリ御上使立上洛セラレ 一 一 九月義就方ノ關地忠賞ノ一

一 畠山藏人紀列伊都和列宇知郡守護任セ 一 一 十二月名入道遊女ヲテアソフ一畠山能登守

一 同四未正月細川成之入ホリ一 十四 一 二月南方ノ余徒紀列固城集ル畠山ヨリ

一 三月山名宗全頃日義就志ヲ通ル一 十五 一 亦キ廿二日落城ノ一

一 閏五月凶徒ノ余類紀列ヲ打トル 十五  
 一 同六月和列筒井順秀法隆寺志貴 十六  
 一 山寺僧ヲ追立白山ヨリ打并法隆寺戦一 十七  
 一 同三月山城味澤ヲヒテ今出川殿分領ト島 十八  
 一 政長ノ領ト入組一 十九  
 一 同五月遊佐筒井對陣大和勢カ白山ノ下知付 十九  
 一 打立筒井ヨリ和睦ノ一 十九  
 一 同六月五日筒井女遊佐婚禮白山國信一 十九  
 一 隅田能継娘ヲマヒラスル一 十九  
 一 同七月文正元正月白山政長長母影像ヲ 二十  
 一 工カシメスル一三月文正ト改ル 二十  
 一 同八月斯波千代德継嗣大野美敏トシ家族ト 二十  
 一 不和ナリ澁川美寛ヲ家主トスルヨリ公方一 二十  
 一 美敏家督ヲ願一 二十  
 一 九月八日美就能熊野北山ヲ打立河列入若等 二十一  
 一 攻之遊佐長直美就一降参ラスル一 二十一  
 一 十月廿五日美就河列ヨリ上洛ノ一 二十一  
 一 應仁元庚正月元日時ノ官領挽飯進奉ル 二十二  
 一 御恒例ノ一相違ノ一政長執居ノ一 二十二  
 一 二月南方ノ余徒紀列固ノ城ニ集ル 二十四  
 一 白山ヨリ打并廿日日落城ノ一 二十五  
 一 同五申正月和久壹岐守カ一 二十六  
 一 四月猿樂將軍成御ナル一 二十六  
 一 三月能ヲワラントスル雷公鳴コトヲヒクニキ一 二十七  
 一 十月公方ノ御童坊相阿弥執居ノ一 二十七  
 一 十二月公方嗣君ヲシサレヨツテ浄土寺ノ御門ヲ 二十八  
 一 还俗ナシ奉ル 二十九  
 一 九月泉列ノ軍人湯浅又太師徒黨ヲ立 二十九  
 一 遊佐河内守打出和列筒井加勢ノ一 二十九  
 一 閏二月和列越知新次郎ヨリ白山美就公 三十  
 一 熊野ニテカモヨウノ事忠進 三十  
 一 五月山名宗全ヨリ紀列美就方一恩免ノ 三十一  
 一 早馬ツカハス一 三十一  
 一 十月美就能熊野ヨリ打出レトキノ紀列初 三十一  
 一 処々相守ル鬼ノ中山ヲ一和泉路ヨリ河列入 三十一  
 一 遊佐長直降参ヲ遊佐長直其友木成兼 三十一  
 一 隅田参和ラスル一 三十一  
 一 二月政長没洛ノ一ヲキ、細川勝元心中ニ 三十九  
 一 山名美就ヲ亡サシ謀ヲクサル政長内通 三十九

一 山名細川兵集メ洛中強動ノ一 三十一  
 一 白山兄弟一人身ナリ勝負可仕音被仰出 三十一  
 一 上御靈ノ森合戦政長打負十月廿日夜振列ニ 三十一  
 一 落ルレ亦和列一行越知城入セラルセ七日紀列 三十一  
 一 御迎参春日山城入セラル一 三十一  
 一 六月船田正金筒井ヲ計ル政長ノ味方トナル一 三十一  
 一 廿五日三茶四茶ニ戦一 三十一  
 一 七月曾斯波美庵ノ室町ノカマヲ細川方ヨリ 三十一  
 一 攻シ山名方ヨリ追拂フ一 三十一  
 一 九月十二日京洛中多焼失シナシツラサル一 三十一  
 一 御処中ノ反忠ノ者アルヨレ付一、撰出退出サセレ 三十一  
 一 三宝院浄花院ノ焼跡ノ陣取山名方ヨリ退拂一 三十一  
 一 十月細川方ニ相国寺ヲ築地ヲカマ一軍兵ヲコメテ 三十一  
 一 山名方ヨリ攻レ是モツイテ落城ス 三十一  
 一 亦山名方ヨリ屯ヲル後、政長方亦勝 三十一  
 一 同三丑正月山名宗全今出川殿一皆山名方 三十一  
 一 太刀ヲ献上ス 三十一  
 一 二月今出川殿宗全カ鐘入ラセ玉一 三十一  
 一 五月文明ト改元セラル 三十一  
 一 十月白山孟範大鷹ヲ今出川殿一献上ス 三十一  
 一 二月南方ノ余徒紀列固ノ城ニ集ル 二十四  
 一 三月上巳モ細川方ハ入モ出仕セス 二十五  
 一 五月細川勝元白山政長軍勢ヲ集ラレ 二十六  
 一 山名宗全白山美就軍兵呼集ムル 二十六  
 一 細川ノ御処ノ御旗ヲ被下ル一二十日合戦 二十六  
 一 方ニ戦一 二十六  
 一 八月十日西國四國ノ勢山名方登笠振津 二十七  
 一 河列勢ト舟軍ニ撰河亦負ル一 二十七  
 一 大内正弘山名陣加三三院戰町家ガカクル 二十七  
 一 武田其基細勇カノ一三三院落ル一 二十七  
 一 岩倉政路城ノ一乱中強盜賊室ヲトリ 二十七  
 一 南良近辺ニ賣買スル一 二十七  
 一 同三子二月山名細川東西陣取日々ニ戦 二十七  
 一 亦國々両家ノ徒堂相戦 二十七  
 一 四月去九月今出川殿潛ニ勢列ニ趣キ玉一 二十七  
 一 六月今出川殿勢列ヲ立玉ヲ十月今出川殿入洛 二十七  
 一 十月今出川殿山名ノ方一入玉一 二十七  
 一 三月細川方ヨリ山名方一夜打ス亦白山美就 二十七  
 一 細川五辻ノ鐘一夜打 二十七  
 一 花ノ御処近臣ヲ定ラレ一 二十七

一 十二月筒井遊佐京西陣通路ヲテグ落武者ヲ打トレ

一 同三月正月富山政如紀列草山城ニ卒セ

一 同五月三月山名宗全死去細川方悦

一 四月美就山崎ノ陣ニ夜ホ

一 十二月富山政長官領ニ任將軍美尚公御参

一 内ノ一富山政長官領ヲマテル富山美統ヲ

一 同八月三月富山信子息彦太郎六位ノ藏人

一 同九月三月富山美就父子京ヲ引拂路次ナキ

一 漸河列ニ入ラレ

一 四月岩細川ノ西徒国々蜂起ス富山美就

一 父子河列若江能龍紀列富山兵庫父子美就

一 赤眉吉野郡ニ入

一 富山政長官領ニナリ正三位叙セ

一 十月京都に在任ノ大名御イトヲクテカ

一 今出川殿濃列ニ下リ玉富山美豊河列引合

一 文明二五月上皇居兵乱ニヨツテ竹園

一 庄坊荒敷エ工雲客諸列ニ去リ玉

一 同辰三月富山美統恩免能登越中ヲ被下

一 北国ノ通路ヒラク

一 同五月細川勝元死去

一 同六月二月富山美就養息政國ヲ

一 越中ニサシコサセ

一 同七月三月茶園白教房公兵庫ヨリ

一 御上洛富山政長路次ノ用事ヲ調ラ

一 四月筒井順秀死去

一 同十月二月美就ヨリ熱川恩賞

一 同十一月正月公方美尚公富山政長ノ鑑ニ入

一 御

一 同十二月前將軍東山殿

一 當將軍美尚公御役衆

一 同十二月三月富山政長一男ヲケ玉

一 御現九申

一 同西宮三月和列首上郡高本寺釋迦堂

一 西界曼茶羅奉納

一 富山政長逝去

一 同六月辰月紀列隅田一旗和列平一揆

一 富山長政ノ方内通

一 同十八年七月細川政元ヲ富山政長ガテ官領

一 補セテ去年八月公方美尚公右大将兼任

一 廿九日参内ニシテ行列

一 長亨ニ申九月公方美尚公内大臣任セ

一 義熙ト改セ

一 同二月正月美熙公江列釣里御在陣御不例

一 三月廿日美熙公ナリ玉

一 四月廿七日太政大臣後

一 位ヲシテリ

一 五月十日延徳ト号セ

一 廿日今出川殿御上洛若君左馬頭殿大御处

一 御養君ニナル

一 駿河国住人伊勢成時カ

一 同三月正月七日今出川美視公薨去

一 御代替諸国ヨリ上洛

辛二

一 同十五卯二月富山御現九元服

一 尚順申三月六日舍弟誕生後尚央ト申

一 同十七日二月富山美就逝去

一 三月河列上若江ヲ戰美豊赤負

一 高野山ニ引退カル

一 同十九未三月富山政長ノ木葉鶴

一 同五月長亨元ト改

一 同六月和列宇知郡大田神宮寺尊仙房

一 政元ノ御臺処不快ノ奇功ヲソトメ玉

一 同九月富山慶宗ノ近臣藝阿弥カ

一 廿ヨリ公方美尚公江州御動座ニ角高頼

一 甲賀山ニ閉モ

一 延徳二成四月堀越ノ御处御長男茶々丸殿

一 ムメニ御自害ニシテ伊勢ノ成時豆列寄

一 茶々丸殿ヲ打穿君ノ京都ノホセ後ニ京公方

一 美澄公ト申奉

一 同七月七日公方美政公薨去

一 義視公薨去御代替カレハ諸列ヨリ上洛

一 同三月十月大内美内六筑紫勢引卒ニ上洛熱川

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至

至



八卷 起明應元終同九年

一 明應元子三月畠山美豐河列答田有り

一 畠山政長京都ヲ二日出馬美豐折テクマ

一 河列被下ルセ日和美相調政長飯陣ノ

一 九月十二日尚頼公ヲ高慶ト改ラレ

一 同正月十日細川政元公ヲ美豐ノ館へ

一 請ラレ公納所替地ノ美豐御勅気

一 六月義枝公波々伯部カ館籠舎ナリ玉

一 十ノクレ方ニ思出越中下著ニ玉道世者首

一 堀越殿若君將軍ナシ天上札替ル

一 同三寅閏四月美枝公北国ヨリ打出坂本テ

一 京勢下戦亦負周防國御下者

一 同五月江州石丸利光濃列小山テ自害

一 京將軍美通ト改メ玉フ

一 同七月和列筒井男子出生木沢又五カ

一 畠山尚慶和列宇知郡思居玉

一 畠山政光江州ヨリ周防へ被下ラレ

一 同九月美通公征夷大將軍ニ任セラレ

一 六月十曾政長父子官位ノ

一 八月江列高頼追討ノタメ二日將軍

一 美枝公三日京都御進發京中志賊ヲ

一 二日付勅命有り廿日御飯陣

一 二月大樹河列御進發政長御供正覺寺

一 御陳答由美豐ノ城ヲ攻玉四月美豐降ヲ

一 フルレに御免ナリカワテ御味敵ナリ大樹

一 御落政長一家五十六人自害ノ美枝公

一 筒井ヲシラス筒井心替リシテ龜瀬峠へ

一 送出御駕輿ヲ奪ハル

一 同五辰六月河列河内城神宮城ノ

一 木沢普堅寺ト物語ノ

一 同十月木沢高人トナリ忠ギノ志ヲツクス

一 坂ニテ人々カイ笛ヲトリカハル

一 宇智郡ノ人々畠山尚慶公ヲ取立ニト

一 奉仕懈ラサル

一 同六己正月界ノ名屋高麗ヨリカレ<sub>一</sub> 三

一 臘腊木沢笛ヲカス平野ヲホ企<sub>一</sub> 三

一 同八月月古督ノ殿七廻忌<sub>一</sub> 三

一 同六月廿七日白山久俊公佐味中山此岩近里<sub>一</sub> 三

一 人々兵仕奉<sub>一</sub> 三

一 同七月廿七日尚慶公紀列遊佐カ方御入<sub>一</sub> 三

一 久俊公ヲ尚英ト改<sub>一</sub> 三

一 三月譽田好品去月病死子息好包降参<sub>一</sub> 三

一 古市セノ信建ホ負<sub>一</sub> 三

一 尚慶公香爐峯八幡宮御参詣奇<sub>一</sub> 三

一 特ノ一高屋城キカ<sub>一</sub> 三

一 四月細川政元ヨリ高屋ホチキム<sub>一</sub> 三

一 日々戰<sub>一</sub> 三

一 細川政元公和列ホ入玉和列味方越知<sub>一</sub> 三

一 城入<sub>一</sub> 三

一 越知落城<sub>一</sub> 三

一 白山尚英公ホ出玉<sub>一</sub> 三

一 白山尚英公同光豊公ホ出内河内神宮<sub>一</sub> 三

一 三城ヲ押<sub>一</sub> 三

一 十月美枝ヨリ白山御感状佐木内通<sub>一</sub> 三

一 同三月和列越知尚慶公味方筒井十市<sub>一</sub> 三

一 戰ホ負落行<sub>一</sub> 三

一 同九月筒井伊賀ヨリホ出越知池田筒井<sub>一</sub> 三

一 引會カ<sub>一</sub> 三

一 同九月尚慶ノ味方界集リ平野<sub>一</sub> 三

一 夜ホ落城<sub>一</sub> 三

一 尚慶公ノ味方河列水越ヨリ大和ホ入<sub>一</sub> 三

一 熱川カ代官吐田<sub>一</sub> 三

一 朝原上<sub>一</sub> 三

一 久野野代石取<sub>一</sub> 三

一 美豊不豫<sub>一</sub> 三

一 供奉<sub>一</sub> 三

一 五月高屋合戰河列東白山尚英公押<sub>一</sub> 三

一 高屋<sub>一</sub> 三

一 七月白山右馬頭順房美枝公命<sub>一</sub> 三

一 西国ヨリ紀列<sub>一</sub> 三

一 美豊方ヨリ紀列<sub>一</sub> 三

一 八月十日和泉引<sub>一</sub> 三

一 十月志貴合戰<sub>一</sub> 三

浴セラル譽田カ<sub>一</sub> 三

細川ヨリ高屋<sub>一</sub> 三

飛<sub>一</sub> 三

使<sub>一</sub> 三



一月細川勢畠山トキナリ澄之ヲシテ遊初  
軒押寄兼師寺香西に死ス澄之自害ノ  
譽田社ノ覆料ノ畠山尚慶ヨリ宮ノ  
和列越知里ノ一越知氏ノ一

高鴨御神ノ一  
昔者我内軍勢本坂一馳參堪州池田  
頼利亦死ノ一

六月八日義尹公入洛マシマス  
七月朔日義尹公征夷大將軍ニ還任ノ一

畠山総列美英味方ヲ催上若江下若江  
鳥帽子形三城ニ指ル一

十月細川澄元四國ヨリ幡列一ホホリ越水ノ  
城ヲ攻ルル宮宗是公方御勅ヲ恩免ノ一

十一月越水ノ城援兵ノ一  
十二月高国公撰列ニ下リ玉公方御庇御保

養十九日表一御出ノ一  
十二月澄元細川澄元三好以下阿波下ラル

上杉房能長尾為景ニホタル一三好  
筑前入道上洛ノ一

一 京都ニ細川澄元ヲ管領トス  
一 九月畠山高慶公入道ニテト山ト改子息  
植長高屋城守ラル

一 同五辰四月細川高國ヲ取立トスル一  
將軍義尹公中国ヨリホ立タマフ  
畠山一家泉列坂一馳參ル此時ヨリ  
井足氏此書ニ見ル

一 十月三好奇雲阿波讃岐ノ勢ヲ集ホノ  
ホ其外佐々木勢京都一攻入  
同六己六月廿日ノ夜御殿中一云賊数人  
忍入君御自身御働ノ一

一 七月紀列兵庫寺ニテ畠山美英ノ初念  
イタス一

一 同七年正月畠山植長尾張守ニ任十日  
高国公澄元公陣ニ押ヨセラル越水ノ城  
兵亦出ル相戦フ一

一 二月越水ノ城三日退去若槻頼久自害  
高国公陣晉澄元公難波表一ヨセラル  
高国公ホクケ城ヲ落ラレ西宮神事ノ一  
伊丹落城一和列坂合部郡内監宰ノ一

一 六月義尹公九日江列ヨリ入洛シタマフ  
澄元公十日阿列逝去ノ一  
高国公采一タマフ一  
長尾為景信列落越後一ホ越推屋テ  
上杉顯定ヲホトル一

一 同八年正月畠山宮内少輔基延御代參ニ  
石清水一巻ル一

一 七月十三日京勢深井ニテホ負  
川原林ヨリ京ニ註進高国加勢ヲ下サル  
細川淡路守ホ負ラレ

一 八月赤松撰列雁尾城攻落川原林十日ノ  
夜落行亦伊丹城ヲ攻  
美澄公江列岡山城ニ他界ニシク一

一 京都一諸処ヨリ急ッ告无勢カエ丹波ノ龜山一  
引退キ玉亦三好長基細川政賢洛中一京ノ  
公方ハ近江ノ佐々木ヲタノミ軍勢ヲ催フカ  
佐々木定頼ノ一

一 廿日公方丹波ノ内藤カ館ヲホ立タマフ畠山  
一家其外都合八万余高雄ニ御陣京勢大徳寺  
今宮小川出向一京方ホ負赤松伊丹ヲ引一

一 三月美澄公若君ノ一細川澄元公ニ病死  
三好勢四國ヨリ上幡列勢畠山在氏遊佐  
河内守何レモ一年ニテル一

一 九月朔日公方高雄ヨリ御立天竜寺ニ首  
實檢其上美澄公御他界有リ是ヨリ千代方歳  
ト祝玉フ一

一 同九甲三月大内美貞從三位ニ任セラル江列  
定頼九里ヲタバカリホ一

一 同十月五月公方美尹公美楯ト改タマフ一  
同十一月七月松倉ト畠山美早ト争論シ松  
倉了ニ紀列ヲ退和列同井ニ入一

一 三月十日細川澄元公江列勢馳佳ホル一  
五月高国公江列ヲホ立佐々木先手ニテ  
京都一攻上三好ホ負澄元公伊丹城ヲ  
落ラレ一三好入道自害ノ一

一 八月七日夜大地震国々堂舎多顛倒ス  
遠列今切レノ一

一 二月畠山ト山河列香爐家手記ヲ撰識  
シタマフ一

一 三月十日細川澄元公江列勢馳佳ホル一  
五月高国公江列ヲホ立佐々木先手ニテ  
京都一攻上三好ホ負澄元公伊丹城ヲ  
落ラレ一三好入道自害ノ一

一 同十二月畠山政国修理大夫任セラル 二八  
 一 同十四月遊佐信明カ 二九  
 一 同九月和列高天行室ノ寺僧ト分領ノ論息 二九  
 一 山植長公ヨリ佐味坂公部ヲ檢使トシテエゾダシ 二九  
 一 南都北小路ノ家ニ男子生ス 二九  
 一 同十月畠山慶宗式部太師ニ任セラル 三〇  
 一 同十六月三月紀列高野山ノ隅田一族ト分領ヲ 三〇  
 一 事論岩倉ニ戦畠山植長公ヨリ平高坊ニ 三〇  
 一 アツカハサル 三〇  
 一 十八日畠山植長公剃髮ノ 三〇  
 一 同四月冬列植村氏ニ管領密封ヲサケル 三一  
 一 同五月平大隅入道ニテ其子勳平宇知郡ノ 三一  
 一 旗頭トナル 三一  
 一 同六月畠山美英方ヨリ高井田ノ押寄ナラ 三一  
 一 カケル 八月畠山在氏率去ノ 三一  
 一 同七月畠山美英ノ味方七百餘奇塩屋甲 三一  
 一 戦田野ヲ荆木ホトル 三一  
 一 同八月畠山植長公ト同美英ト和儀ノ 三一  
 一 同十月細川三好四国ヨリホ出播列赤松ト至 三二  
 一 ナリ有馬郡中寄高国公味方逆寄ホ負ル 三二

一 同八月三ホソ御処ヲ上京(引ル) 三三  
 一 義植公解官美晴公征夷將軍任セラル 三三  
 一 同三年未四月九日前公方美植公淡州撫養 三三  
 一 兼シタマフ 三三  
 一 同五月高国公落髮法名松園道永 三三  
 一 同十月細川種国逝去ノ 三三  
 一 同六月正月山城岩清水社内シンドウノ 三三  
 一 同二月三日前公方山石清水御社参ノ 三三  
 一 畠山美忠管領ニ任セラル 三三  
 一 高国公尼カ寄ノ城ヲ築カル 三三  
 一 同七月十三日高国公館(香西)ホセラル 三三  
 一 同九月香雷郎左内尉ルノ子元秀詭言ヲ 三三  
 一 聞トシテ柳本ト思ヒ丹波下リ逆心ヲ企ル 三三  
 一 十月波多野夫上ノ城ニモリ柳本神尾城ニモリ 三三  
 一 四国勢ヲマツル 三三  
 一 同十一月高国公ホチ下ナル 三三  
 一 下向男山ノ社鳴動ノ 三三  
 一 丹波赤井神尾ノ後誥ノ一京方折角ノ 三三  
 一 同十二月三宅吹田敗北ノ一畠山美元管領位 三三  
 一 公方江州坂本出馬佐々木定頼ヲ攻ム 三三  
 一 十二月阿波勢壞着畠山美元河列守護補セラル 三三

一 同十二月月朝倉君カ一四家被官ノ 三六  
 一 同十五月八月廿三日大内美貞管領ヲ辞シ 三六  
 一 周防下ル細川高国管領トナル 三六  
 一 同九月赤井城列宰人但馬国ニホ出京ヨリ 三六  
 一 畠山美元感足三郎左内ツツカハサル 三六  
 一 同十七月二月細川三好ホ勝入洛ス 三六  
 一 又高国越前ヨリ京都ノ歌ヲ追退洛中 三六  
 一 入テ 三六  
 一 同七月二日和列吉野郡者共内ノ郡ニホ入 三六  
 一 何モホ出追拂 三六  
 一 武衛家ヲトク(畠山)能登越中ニ族立ヲ 三六  
 一 カル細川家采ル 三六  
 一 同十八月二月畠山尚長從五位ニ任セラル 三六  
 一 細川高国公六百番ノ哥合ノ 三六  
 一 北畠殿大追物ヲ行ハル 三六  
 一 同三月河列ニ公方管亀ニサアリニ落奉ル道世 三六  
 一 カ子ノ一高国公方ヲ恨亦不洽 三六  
 一 年号大永改ニ和列佐味大炊助徳太守殿源氏 三六  
 一 若紫卷ヲ御屋形奉ル一和列宿宿田ノ場ノ 三六  
 一 同七月赤松ヨリ美澄公ノ若君上洛ノ 三六

一 大永二年八月畠山持富公長男尚長十七日紀列率去 三六  
 一 吉野郡モ共去々年チウツ大々ガ下平沼田 三六  
 一 勢ソロニシテホテカル近所出合追散ス 三六  
 一 同四月和列竹筒井ノ男子生ル 三六  
 一 四月竹筒井順盛卒去 三六  
 一 六月柳本今井木福住茲明寺越知高田 三六  
 一 玉井井ノ者共宇知郡ニホ入隅田松園草生 三六  
 一 葛上ノ佐味芝中井幸田等出合追拂 三六  
 一 紀列是吉日前宮ノ 三六  
 一 三管領ノ 三六  
 一 同七年亥正月細川総明丸近日京都 三六  
 一 攻ホルトキエ(公方)江州ヨリ飯京ニシラス 三六  
 一 同二月山崎城ヲルル一其外播列城陣ヲチク 三六  
 一 三好勢山崎モリカ(ス)ソレヨリ京攻ホル 三六  
 一 御処ニ茶御動座道永入道妙木寺陣ニ 三六  
 一 三好勢トタカイ道永勢ホ負ル日野殿ホレモ 三六  
 一 三好勢前入道自害同左内督疵ヲフムリ死ス 三六  
 一 御処ニ道永トモ(江)列ノ落玉ヲ一阿波衆柳本 三六  
 一 本望トケ浴中 三六  
 一 同三月阿波若御処壞ニ御着ノ 三六  
 一 河列恩地ノ社額ノ一遊佐長教カ 三六  
 一 七月阿波御処細川晴元ノ 三六

九月三好長基伊丹城ヲ攻ル 四三

榊本河列高屋ヲ攻ル

同八月子月朝倉三好和談ヲ阿波ノ御処 四六

享祿ト改ル

二月三好柳本一和談ヲ破レ暗元公三好長基 四六

申決聞入玉ハル大各々暗元降矣スユニ

公方モ道永モ京叶江列朽木へ下リエ

畠山植長公柳本ヲ追退レシヨリ紀大河泉

四列ミナシタガ

同八月細川晴元公ヲウラミ三好薩摩入道一家 四八

塚ヲ互阿波三好ガカリケル

同十月伊丹落二族三十人オ死ノ

同三寅二月畠山植長公去年ノ和漢藥品ヲラハ

ツサシメラル

同昔播列別処上洛シテ柳本ヲ頼依藤退治 四八

ヲ頼六月柳本別処同心シテ依藤城ヲ攻ルニ

六月夜何者カ柳本ヲ刺殺別処城有田城

落レ浦上威ヲフル

道永入道常桓ト改名セラレ方々頼ルレ 四九

調ハサル 七月常桓入道播列人九塚参ル

浦上タラシ打立タル

八月遊佐御屋形御上上常桓入道播列 四九

折立清元公ノ味方伊丹池田富松ノ三城寄ル

五月阿波衆塚ヨリ出張天王寺合戦赤松 五二

総々ヲホトル浦上无勢ニナル

八月畠山植成河列小山ノ城ニテ茶ノ 五三

會アリ

十月一日高屋後詰ト山公京ヨリ下リ王 四四

寄手折肩水越コノイ

榊本カ落武者ヲ生捕ル

道永公ノ勢京都ノ戦ニオ勝

遊佐阿部大西オ死ノ

廿八日伊丹寄手三好勢本因一引

京祿元二年前管領畠山美忠大明(金吉高 四七

ツカカハル則妙方ヲ授今ノ西大寺保心丹コナリ

同二丑正月榊本伊丹ヲ攻弥三郎ヲ打トル 四七

京ヨリ三好遠江守塩田山崎(カケ付)三好長基

同政長ヒラカタテ入道

同五月大明使洛入畠山美忠(謁)妙方ヲ授ス

畠山植長公養良君高政公ヲナサル

同七月和列宇知郡ヨリ紀伊葛上ノ山ツキ 四七

此若ニテ処ノ

九月富松城落薬師寺降参ス亦伊丹ヨリ 五二

富松(寄)セ阿波オツケ井上オ死伊丹城引入

十月常桓入道大物(取)カケ薬師寺降参(中川

原林オ死

同四月二月暗元公入質ヲ生害セラレ 五二

高富伊丹城ヲモルアツカイニ池田曳退

三月池田ノ城落塚無勢ノ処(四国勢着)ノキ

塚ヨリ和田畠山美信四国ノ御処方ノ

六月浦上オ負ル(寫)村燦ノ

野里河人死ノ

浦上内藏伊勢六郎オ死赤松序(父)ノ敵ヲオ

常桓入道大物ノ(廣)徳寺ニテ生害辞世ノ

此軍尸塚(メ)馬塚(糞)塚ト云

廿九日大慧良ノ方(ア)ラハル

五三

五二

五二

五二

五二

五二

五二

五二

十之卷 天文元ヨリ 弘治三迄

一 天文元辰正月義明公上洛細川晴元

管領ノ一

三月南都真福寺大衆町ト攻メカイ

大衆キ負高取城ニテ入一揆ト高取ヲ

攻メ大衆越知竹筒井ヲメノ一

八月大衆高取ヲホ立南都キ入一揆キ出

西御門主ヨリ扱ニテ静メ

同三年正月三好勢北花田ヲ攻メントス北花田ヨリ

ホ出戦味方ホ勝高坊入道ホ死

二月紀列湯川下司中村成逸電ノ一

同三月和列南良北小路飯田ニ男生

七月和列筒井順貞死去ノ一男女子生

九月三好海雲男子ノ并我意他分領ヲ犯

十二月冬列徳川ノ一

織田家ノ一

御屋下和列越知ノ内類ノ一

佐味吐田越知一ツケスル堤源二郎聖山

シカル南方錦ノ御旗ノ一

二月三好海雲晴元公ノニクニニテ

界ヲ殺シ申サ

畠山藏人河列大黒ヲ館ニテ茶ノ會ノ一

三好始長入道ノ喜雲ト云同弟ノ入道善室ト云

同二年二月三好海雲ホレ弟喜雲云同善室

堺ニ有テ御屋形ノ分領取ケル

十八日高屋ヲホ立タラフ北花田ニテ止并頭

本寺ニテ三好喜雲善室自害ノ一

平助七大将ノ首ニ級侍分ノ首五級ホトル

依テ河列清水ヲ賜ル是ヨリ清水ト称ス

六月畠山植成紀列ニ卒ス

同五年三月吐田内藏坊狐ヲ使令スル

御屋形ニナルノ一

六月三好長慶堺ノ政所ト称セスル

御屋形ニナルノ一

七月畠山美信公太平寺殿ト称スル

御屋形ニナルノ一

御屋形ニナルノ一

一 同六月百山政頼北花田ヲ引退

一 三好長慶堰威益 血滯城ノ一

一 木沢金方一並金山死泉州大平木沢

一 伏後ス野田池尻ニ出殺山ニ陳ス

一 五月木沢伏見山カカリ城ヲキツク

一 六月木沢長政行圍ヲ悉伏後ニ捕原ガレ

一 猶原米田越知引道外皆降矣ス

一 七月兄弟高天ニ會合シ信濃守越知向

一 右京亮ニ字知郡高佐味ノ上琵琶尾城ヲ

一 越知高取ノ城ニ引同源二郎貝吹城ヲ

一 佐味西上山ニ堤源二郎籠タル木沢右京攻

一 十二月字知郡生殘民部當分木沢降トイハレ

一 紀州并足基安ホ出ラレ新城ノ一

一 伊都字知郡皆木沢ホ向木澤山城守降矣ス

一 同信濃守ニ和山ヲ攻ツトス

一 井足平小和山葛城ノ若ヲ攻木沢山城守降矣

一 同信濃守同也太小和山ヲ攻ツトス

一 同右京河列ニ引山美亮遊佐小柳竜泉

一 皆竜泉捕クモ木沢引勢押ヨセ戦一

一 木沢右京竜泉ヲ引泉列ニツホム

一 字知郡軍勢木沢信濃守ヲ攻ツトス

一 同四月越中乱ノ一

一 五月植長公剛琳寺ニ歎徒退治初一

一 葛城西門ノ一 首并安基カチクツル一

一 別処知内カ一

一 同九月正月木沢河列頼呂攻ヨセ白山美

一 英ト戦木沢打泉列ニ引入ニ見源七亦死

一 同十一月三月木沢大勢ヲ河列ニホ入聞

一 御屋形御出馬十日殺山ヲホ玉木沢亦死

一 四月松永主正泉州家原ノ城ヨス神保後

一 誥ノ歎ヲウハラフ河列伯々部城遊佐村田指

一 モル松永久秀八尾トヒ攻ヨセ村田亦死城落シ

一 五月飯盛城ニ深田土肥在住ニ好海老名攻ヨセ

一 深田土肥切リヌケ石川引退ク是ヨリ海老名在住

一 紀列吉川ノ一

一 同十三辰四月遊佐河内守若江攻落堀江河

一 内守ヲ追落自ラ若江城ニ入

一 八月白山和匡三好方城江ニ陳取戦

一 九月江口合戦味方勝

九 三月木沢逆乱大平寺殿一味

一 河列石川ヲ木沢亦寄

一 和列越知平一揆モ是タスホ出用意ス

一 四月木沢長政竹内ノ一和列ニ入

一 木沢信濃守ニ戒郡山ホ登ルクヨリ高天

一 登リ

一 八月生殘民部亦死堤ノ内引シラフコ

一 コラ一

一 九月木沢佐味ノ中山ニ陣ク雷野階田降矣

一 堤内ノ野原ニ引

一 貝吹新城ニ落城定師ノ城十市モ入

一 布施万賊モ山田ニ入

一 木沢ヨリ近内久留野ニ宛行一

一 平房知紀州ノ隅田ニ入

一 白山藏人神保ヲ越中ノ味方カタライツカ

一 同七月正月三好美賢刺髪ニ海月体ト号ス

一 白山政城平去

一 白山高氏伊豫國ニ渡海軍勢ノモヤシナリ

一 同政慶ノ勢列ニ趣是モ軍勢カモウシテリ

一 同二月白山政慶字多郡カ一宇知郡

一 全フ大平寺殿ヲ攻タクノ一

一 宮原殿ノ一 大平寺記ノ一

一 同八月二月石川郡ノ人々皆木沢ニ叛キ

一 白山殿恩免蒙リシ一

一 泉列梵天宮光氣凡ノ一

一 三月紀州根來杉坊覺春種子カ鳥渡リ

一 銃炮ヲ傳來シ是ヨリ日本披ス

一 同八月丹下ニ深田城木沢ハ佐味申山城

一 平トヒ字知郡ヲ守ル者來ノ法ニカモ侍上中下

一 定一

一 十月白山高氏和匡ト改

一 同十一月正月白山高政公尾張守ニ轉任セ

一 二月紀列吉川雲列尼子ニ使者ノ一

一 湯川光春泉列ホ出平丹下出合塩定寺ニアリ

一 松永主正ヲ追ツトス三好和泉守カ石津陣ヲ攻

一 紀列入

一 南都比小路飯田直基息男武威ヲ全ス 松永秀

一 和列表ヲ切リ大方伏後ス

一 同十四日二月植長公不倒

一 同三月和列十市兵部少輔後下中原遠忠逃去



一 四月水沢城守江陣卒去旗下皆平方飯屬ス

一 九月白田山尾張守植長公逝去江口軍勢ヲニテ六

一 加フル三好亦負味方竜泉根來西方院歩

一 死味方高名御屋形注進ス

一 和列首白下郡赤土ノ一亦武雷命常陸國ヨリ

一 大和ウツリ玉フ一狐井ノ一

一 十六日三月山田ノ一細川晴元三好長慶四勢

一 京都攻上ル大樹北白川一退玉

一 七月晴元相國寺陣ヲヨセル箕作入道東

一 城ヲカコム晴元箕作ヲ公方御免ノ一

一 晴元公當管領トナル

一 同十七日三月南都西栗寺豊心丹ノ一

一 同五月四茶河原ニテ白田山美忠ノ家人ト三好方ノ

一 家人ト石ヲお合ノ一

一 同十八日三月晴元公三好長慶、其列戰

一 同六月三好宗二下長慶中島三宅ノ戰宗三

一 亦死晴元公丹波落行公方ヨリ京都メサレ

一 公方坂本一御退出ノ一

一 九月高政公御不例御快腹ノ一

一 南都飯田養子ノ一

一 同十九日三月佐々木美実細川晴元城ヲ如意

一 カ獄キツカル

一 同二月公方坂本ヲ出御近江ノ穴太入玉揚州

一 伊丹運心公方御違例ノ一

一 五月公方義晴公御薨去ノ一

一 同十五日三月廿日白田山美忠愛宕山

一 御代參多化生出ル事

一 同十月平筑前守受領官ヲカス伯父三郎

一 左内門入道ス

一 根來西方院跡榮專卷數ヲ御屋形奉ル

一 四月細川晴元京東山ニヨセラレ吉田淨土寺

一 真如堂焼晴元退陣セラル

一 白田山高政公三好ト天王寺合戰味方打負

一 高政公和國落玉其レヨリ紀列全高屋城

一 三好取ラレル一女性達岩室山入玉一

一 六月公方日本國ノ大名ノ御家迄ノ系

一 圖ヲ御改ノ一

一 七月三好長慶入洛ス三好氏ノ一

一 八月細川氏細河列ノ一

一 九月白田山一家河泉和紀軍勢モヤウノ一

一 河列教貞寺ノ一南都西大寺

一 愛澤明王ノ一白井甚太郎紀列參ノ一

一 十月白田山但馬守佐野右京坂本ニテケシクワシ

一 公方佐々木變ニテシツマル

一 白田山高政後四位上左衛門佐任セラル

一 十月三好長慶入洛ス

一 同十月三好長慶六月筒井頼昭死去

一 和列上山三好喜藏岡周防守西城ヲ

一 キツクノ一

一 晴元公家人相國寺ヲ指コメル三好長慶

佐味出張

八月美直公紀列飯陣ノ一

十一之卷 永禄元戊午ヨリ己巳

一 八月安見美作守心替り味方打負高政

亦紀列引入玉

一 九月高政公高野山御登り熊野八庄目味

矣之其ヨリ猿川城御入紀列泉列所々城守

一 七月平三郎茂知飛札ヲ馳字知郡葛上葛下

字多何七御出勢ヲ相待候ト高政公申上ル

汝川今里一押セ相戦

一 九月十河一存岸ノ和田指籠龜赤沢内藤

某師寺国巢汝川五人押ヨセ相戦三好

美長後ツク敗ラレ

一 高政公大軍ヲ率シ泉ヲ打出玉岸ノ和田

上山陰陣ハリ玉

一 三月白山ノ勢三列分テ一ツ山岸ノ和田ヨセ三好

實体入道打死ス山岸ノ和田ニ附城ヲコレラ

軍勢コトキ高政公紀列帰陣シ玉

是久米田合戦

一 八月南都飯田春宗死去和別志貴城ハ

十市指籠龜

一 九月三好修理長慶弟冬康ト松永不和ナリ

一 七月白山左雨佐高政公同秋高公紀列

亦出玉一河列壺井通法寺御陣三好

長慶兄弟譽言田古市亦出西陣カ

勝負不付

一 永禄二己未六月櫻列汝川存尹某師寺

美貞内藤武吉房三好長慶ヲ恨高政公

御味方内通スル

一 八月高政公御出馬飯盛今里ノ西城ヲ

責亦安見方城ヲセメラル一安見降矣

一 二月松永久秀父野城押ヨスル高政公

打出松永ヲ追拂玉神保上田ヲ龍泉嶽

コレ又紀列入玉

一 三好長慶同美賢岸ノ和田城ヲ夥シクテ

造立大勢ヲコメヨキ我身公界居白山ヨリ

亦向フヲ相待ト見ル

一 七月三好美長宗八人ニ佐備川ヲ前ニ

河合寺ノ山塞ヲカニ竜白金山金胎寺ヲ

責ル白山勢ヲ添山陣ス櫻井兄弟城内

ツカサル、一三好方亦負ル

一 同四年三月御屋形ノ命ニ赤山保津村(十四)

一 押寄赤山亦負ル

一 泉別松方寄城主三淵白山ノ麾下下ル

一 三好方ヨリ押寄落城ス是ヨリ岸和田ノ

一 後誥ス白山美宣公政頼公亦負信達ノ

一 城ニ入ル

一 根來久秀三好美長毒ヲアタメ殺ス(十五)

一 九月公方御嬖君三好美継被下ル(十六)

一 松永出生、一多門、一三好三久、一

一 十月松永信貴ノ城ヲ責ル城内ニ十市知信(十六)

一 指筆庵寺僧歌ナリ落城知信自害(十七)

一 七月若江城三好方押寄せ遊佐亦負落

一 城ス三好入カワル

一 十月高屋在城三好方誓約、一三好美継(十九)

一 若江入

一 五月松永多武峯ヲ責ト催ス所久秀(二十)

一 病トテソノマナリ

一 五月泉別松方寄城、一三好泉別ノ公納(二十一)

一 御代官ヲ追出

一 六月公方ヨリ三好退治ニ軍勢ヲ撰別中島(二十二)

一 城向サセラル河一存後誥京方亦負ル

冬康逆心ト謀シ長慶塚ニテ冬康ヲ

一 生害スル

一 白山ヨリ尾別織田信長公平三郎七郎ヲ

一 被遣

一 御屋削若君御誕生ノ

一 九月平尾州下リ信長公御妹君高政(十五)

一 嫁嫁

一 七月高政公御座ノ間ニ御繪兩ヲ召サレ繪ヲ

一 カセラル

一 八月尾州ヨリ富士御前紀州大野ノ(十六)

一 城ニ入玉

一 同九月成若高政公出馬河列若江城入玉三好方

一 高安教興寺亦出ル、一万願寺ニ戦味方亦負

一 高政公若江引至又和列引久留野宿陣シ玉

一 同六月三月高政公紀列ニテ御屋形御

一 神保領知付高野ノ僧徒ト高政公不平メ

一 變又文路ニテ高野ヨリ亦出戦扱ナリ治

一 同七月甲子正月公方御定法武功ヲ記サル、(二十)

一 其輕重ノ

一 七月三好長慶河列飯盛ニ病死ス(二十一)

一 義次暫爰在城ス

一 十月公方室町御所ヲ御營構アリ(二十二)

一 十一月三好逆心日々ニツノリ白山九郎美繁

一 公方ヨリ三好追討ノ義高政公内意ヲ

一 被仰下ル

一 南都一乘院押フ奉リ三好ヨリ番勢(二十六)

一 御氣ニ付米田壹岐守御療月ノ一覺慶

一 南都ヲ落サセ玉

一 江列入玉三好ノ者ト追カレル佐々木

一 後藤追捕

一 和列十市能書ノ(二十七)

一 同多武安軍鎌足公ノ御靈並此所ニ鎮座シ玉

一 僧坊近邊亦出吉野ノ八庄司ヲ撥順心

一 亦國中亦出ル宇知郡ニモ亦入是箇井ヨリ

一 葛上首下箇井隆和列大形箇井幕

一 下ニル

一 和列高市郡今井町ニ兵部御取立ニ分ヲ

一 立ル

一 十月白山勢九郎吊軍セント上ノ太子陣ス(二十八)

一 松永ト不和ナリ美次松永ニシラシラ

一 三好家美栄公方取立ントス二人取ト

一 負ル、一南都中坊箇井ト同心ノ

一 室長田片岡ト岡周防ト津井ノ西井岡亦

一 二上ノ嶽城ヲキクノ橋原俱尸羅佐味長柄

一 七月松永莫下五位堂下田逢坂岡ノ国高(二十九)

一 若君御病死ノ

一 六月和列山田、一此繪高政公上ル(二十七)

一 義輝公御若君白山一家ヲ御頼思召(二十七)

一 河列下ラセ玉三好ト白山ト卷田以原戰

三人衆トリカニ高屋(籠城ス)

藤千代君病身ノ一

同九月寅正月畠山ヨリ播列ノ別処ト申合テ

畠山ヨリ播列ノ歩入浪田ノ土居陣ス

別所折出ラレ三好亦負二百余歩死ノ一

三好方折出高政公堀キ出玉松永畠山方ニ

ナル畠山方亦負堀引入松永ハ多門ニ反ル

十一月阿波ノ御処美栄公ニ徐討セラル

同十月卯二月阿波ノ御処美栄公撰列畠田ノ庄

入至三好三人衆是ヲ奉仕主君三好美次ヲアテ

ドルニヨリ松永ト心アリ

三好金剛山ト早ト二年ニナリ宇知郡書入

郡内皆々降参ラス荒坂山和山城ヲカマ

勢ヲコメヲキ其外ハ河列ニ引

十月美栄公御下知ニ三好勢松永退治ノ行ハ

南都ノ大佛殿陣ス松永多門以城ヨリ

折出三好亦負大佛殿焼失ス信長公上方御出

馬ヲツラフ河列古市景治松永降志首多

門西城松永兼帯多門矢ヲト云

東国徳川家ノ一 家康公ト信長公御和睦

三好方高屋ヨリ折出梶原業兼折死畠山

則清庇ヲカウム

三月安見ノ美良子ニ高政公ヨリ秋高公ノ

御弟ヲ被下ル

五月高政公松永ト一年ニナリ界ノ玉蓮社

陣ニ玉撰列ヨリ味方来ル界ノ町中受

ナリ此所双方引

畠山基安出生并足ノ一

此時泉列信達ノ城入ラル基安修理亮ト

甲長子八郎次郎基伸ト名ノラセラル

畠山其安暫泉列居高屋還入ノ計ラレ

松永久秀三好美次畠山ト和後ニ河半分ヲ

美次ノ領地トシ松永別心ナキ誓詞ヲ以根来

ヨリ受トイエ是延引ニナル

七月高政公老臣ヨリ旗カカタノ使者

ノ一

八月將軍美昭公江列ヨリ御上洛ノ御モヤウ

三好美次ハ御姉尊ナリ

一 昔日住吉ノ社大鳴動ノ一

家康公岐阜ニ御入本多平八郎

畠山高政公御家督ヲ御舎身秋高公

譲リ玉ト左内佐ト申次郎四郎政度公ヲ

尾張守ト申

十月辰二月美栄公征夷將軍ヲ宣下撰列

畠田ニ御座アリ界政所ノ一

八月宇知郡ニ三好方ヨリ大半切從荒坂山

ヲカタクツリ聞ケル故紀列ノ畠山勢押寄

郡内足加リ荒坂山ヲ追落ス是郡内ノ

番城トス大飼ノ深闇城ニ丹下橋凡奥ヲ

コメラレ

冬列徳川家老臣ノ一

織田信長公亦義秀公義昭公御供

御入洛ノ一撰列御發向三好方大方降参ス

十月阿波ノ御処美栄公畠田ヨリ四國ニ下

ヲニ去

畠山高政公三好支ラレ上洛ノ不叶ナル

御入洛ヨリ河列ノ歩入玉高屋城ヨリ伊次

入道畠山(内通)ノ平尾合戦味方折

高野ノ僧徒高柴山ヨリ宇知郡ヲ入川南

高野ノ僧徒坂合部高柴山出城

カニ宇知郡ヲ取ラントス坂合部頼重折負

ル

十月三好古市郡西浦ニヨセ畠山方折出

味方折勝

七月織田信長公ヲ美昭公御頼アリ御上洛

モヤウノ一紀列粉川寺(内通)

高野僧徒高柴ノ城ニキ坂合部ヨリ

深闇トトリカケ落城スル佐村源之助カ

折残ナル人々牧野ノ城ニツホム

九月京都ニ三好家在住ニ政道ヲ取行

淀山石成難波ニ後原野田ノ城ニ三好在門尉

同日向入道同下野入道ニ人ハ二条

三好新右内尉同左京入道東條此三人ノ多

茨川ニ後原本良河列ニ三好山崎守同一族五畿内

ニコレ成

美昭公撰列河列ニ御發向松永小清水卷

御飯洛ヲ賀ス河列ハ半回ヲ三好美次玉

畠山高政公御兄弟弟美昭公軍功ヲ賀ニ奉

リ

在々放之靈安寺御靈ノ社ヲ焼ク

一 高政公ニ好追討ノ旨被仰下ル

一 十月平橋原ガカラ石ノ子山城ヲキク

一 松永竹筒井ノ戦又石ノ子ノ寄平橋原此所ヲ引

ソレヨリ丹ク寄折負ル

一 十二月岩成逆心シ軍勢ヲ集メ泉別家原城

押ヨスニ好多純ノ家栢籠ル落城ノ

一 多昭公ニ本回寺ニ入御ノ

一 高政公御病中ニテ京都ノ御加勢ニモ空ノオスギ

二月御屋形御不例多宣公ノ御ユイケシ

御卒考

一 四月信長公五畿内征伐柴田佐久間四大将

差上ナル高屋ニ三好在位

一 畠山此勢ヲエテ高屋ヲ青取リ玉フ宇知郡ハ

高野ノ僧衆其ヒヲ空規

一 畠山其伴白泉列上野原土塚ノ城ニ入國中ヲ

押ハラル柴田勝家ヨリ土塚ノ飛檄ノ

一 松永片岡ノ寄折負ル

一 片岡病死ノ

一 和列ノ和泉長良子ノ

一 秋高公ノ御諱ノ昭ノ字ヲ玉ル

一 河南紀伊大和畠山ノ玉昭高公信長公ノ姪ノ

一 河内飲盛ノ城ニ高政公昭高公全携別石山ノ

一 義昭公御飯落ノ

一 十二月正月ニ好一族携別城ノ勢揃ニ義継ノ領内

一 シ火ヲテテ乱妨ス又山列義豆ニ陣カ本回寺ノ

一 寄ニ好方折負ル

一 二月筒井松永戦ノ竹筒井折負宇多ニ

一 入テ大和太半松永ニ降ル

一 立御幸カ瀬ニテ松永片岡ニ折負ル

一 六月高屋城内伊沢反忠ノ

一 高屋落城昭高公還入ニシマス

一 携別入江ノ

一 八月京都相国寺御普請ノ

一 高野僧徒深闇ヲカメケルカ高屋ノ様子ヲ

一 聞テ開城ス郡内ノ人々亦出僧徒多ク死ノ

一 二亦ノ焼死新御所ヲ作セラル

一 十月信長公御京相国寺入玉

一 内裏ヲ修造ノ

一 武衛美銀ノ

一 畠山美宣公老年高屋城ヲ昭高公ニ

一 禪リ泉列ニ松郷開居ノ

一 紀列遊佐直純赤子由所ツカハス

一 和列筒井松永ニ追及ナレ宇多ヲ執居シ

一 松永巨勢ニ寄正美亦死ノ

十二之卷

元龜元ヨリ  
慶長四ヨリ

一 元龜元庚午三月織田信長公上洛半井

鹽庵カ宅ニ玉近国大名参仕ノ

白山昭高公モ上洛アリ信長公ニ御面謁

ニ余ノ御処ニ御能アリ公方御上野見信長公

其外大名見物

一 八月安宅一味ノ同伊丹トリカクル

安宅古橋城トリカクル

大坂本願寺光佐ニ好一味ノ信長公御出馬

御旗

白山昭高公ニ好義継松其外泉ノ人々信長公

馳加ルニ好為ニ香西降参

九月ニ好兵庫外池田園城ノ播別勢又

白山家ノ命ヲ含紀列勢馳参

公方御出細川藤賢ノ城御陣

信長公中寫天神ニ御陣

後大坂ヨリ西登電ノ峯ニ取出スル

押ハタメ

前大坂川口白城ヲコレラハル旗頭十人ユスル

一 四月織田信長公越前發向佐々木ト和睦

ノ

一 五月信長公飯田ノ

和列大田片岡ノ白山城ヲカフ

片岡ノ老臣岩瀬山城ヲコレラハ

其外亦出九度ニ松永ト戦

一 六月ニ好一旗細川六郎ヲ大将トシ四圍ヨリ

攻上ル

一 七月ニ好勢撰列野田福嶋楯ヲモル安宅

兵庫ニ付

白山昭高公ニ好義継ト談合アリ古橋ノ

城ヲコレラハ兩方ヨリ勢ヲカフ

野田福島ヲ攻ル濃外福吉堤鉄炮ノ弁

ノ公方浦江城ニ入玉

白山勢遠里小野ノ天王寺住吉ニ陣ス淀川ヲ

切落シ味方ノ陣々水難ニシヨブ田ノ中ニ矢

倉ヲ上ル

大坂方ヨリ暖ヲ入レ信長公承引フニ

ル

一 九月江列浅井越前ノ朝倉信長公ヲ折シ  
ト攻上ル

織田信治江列ヲ死是富山昭高公ノ留君

廿日公方ヲ始信長公中嶋ヲ引ハラセ玉

中津川ノ船橋切放亦江川ニ同川向ニ撥支ル

信長公鳥飼ノ堤ニ幾内播列紀列人々

御暇下ル

廿七日四國勢ニ好義ニ郎ヲ大将ヲ野田福嶋

後詰ニ兵庫ツキ河原林ノ城ヲ攻落亦四國引

信長公大津坂本陣セラル野田福嶋ノ押富山

昭高公其外河列根列ノ味方相守ル

河城ニ列ニ敵大ニ蔓リ処々ニ戦

同日辛未三月能登子白山美継公美隆ト改

ラル

洛西大原ノ連歌細川藤孝貞行ノ

弟ニテ終ル

和列高市郡兒島寺ノ報仁高屋来ル

紀列白上ノ火幸ニ白鳥集ル

和列大飼ヲ二見ニ被下ル

一 十月三好高屋ヲ攻テ追拂

十五日古市田鶴城ノ西ニ戦味方ヲ勝

一 十二月十六日公方ノ噫ニテ信長公浅井朝倉

和平ノ

織田氏ノ

一 冬列徳川家康信長一同ニ関東ヲ

押鎮セラ

越後長尾鍾信徳川家ト入魂ノ

一 十河存保河内守トナル

信長公御足弟ノ一未弟源五郎昭高公ト

入魂ノ

信長公若君達ノ

信長公度々ノ戦ノ一今岐阜在府

一 四月富山高政公ノ御基処泉州若松庄

長福寺淳仁律師ノ弟子トナリ剃髮

シタフニ妙照尼ト号ス佛師春日法道

仙人ノ一 大鳥明神ノ一 十一面尊

像ヲ納玉一 火災ノ一 本尊寺ホウヤ

ケノ

一 妙照尼河列至井山移任セラル男鬼女鬼ノ

泉河アリニ鬼住村ノ

一 五月和列坂谷部頼重布衣袋山城ヲ築ク

伊賀吉野高野ノ敵ヲ防ヘキタメナリ

丹下基賢方ニ男喜三郎ヲ坂部養子スル

一 八月筒井半造ヨリお出ル松永亦負多門ノ

城ニ引テ松永方ニモタク討死筒井方ニモ

山由水間亦死ノ

順慶ヨリ明知ヲタノ信長公ニ御味方ヲ申ソ

上旨申達ル一 竜ノ市ノ東ノ山城ツキク多

聞日々寄スル筒井ノ城松永ヨリ番勢ヲ

箸尾十市越知ヨリ取カクル則城ヲアテ渡

箸尾入カ

信長公噫テ松永志貴順慶ハ筒井ノ

本領ヲタ聞ハ信長公ヨリ目付トシテ山田

對馬守ヲ入カタルモシ夫クラト云一 是ヨリ

ハシ

和列大津治片岡モ本領ニカ

一 同三申正月富山昭高公河列香爐峯北鷹鳥將

二月上京武者ノ山路信長公館ヲ造ラ

一 四月妙照尼紀列ノ粉川寺ニ冬ニ管伊都郡

勝利すニ冬リ玉

富山上総女昭高公左衛門督ニ任セラル

一 六月二見美繩高野ノ剃髮密藏

院住持ス

七月密藏院圓海ニ見ガリ剛カノ惡シテ

郡内ニ獨歩ス

筒井ハ松永ニ追テラル宇多ニ蟻居今テ竜ノ

市井ノエ松永志貴ヨリお寄スル

織多村ノ城松倉カ一 碓上ノ松永亦負

多門城ニ引ル

一 九月富山政頼逝去ノ

筒井順慶息男正信卒ス養子亦好方

亦出富山方ト西ノ浦ニ井西方ツカレ引

一 十月河列田鶴城ヲ遊田城ト改ル

水成ニ三好方富山方戦味方亦勝

十一月奉田市ロライテ三好ト井味方ト云モ

富山正國疵ヲ蒙リ卒去ノ

細川六郎岩城信長公ハ降参

一 伊賀吉野ノモ共ナレ合宇知郡坂合部城 三十一  
夜折郡内何モ出相戦ニ見源二郎  
布衣山ノ城ニ歩死ノ一

一 三好一族茂次三黨ニ交野ノ城ニ押ヨスル  
御屋形ヨリ援兵ノ一三好高屋ニ附城ヲ  
スル一

一 信長公上洛河列ノ加勢ノ一昭高公交野向ニ  
公高屋ノ付城ヲ攻ル平撥高名ノ一愛深  
明王利生ノ一楠ノ状ノ一朱采拜ノ一

一 飯盛今里小山城ノ一  
三好方参田川原ニ押寄スル味方折勝一三十三  
十月三好帯刀矢野等歩出河列加田墓ニ

一 戦味方遊佐三木恩地清水鍾井和野  
虎伊知地等ノ一三好方知ヲ凡  
其上三好長春カ娘ヲ遊佐光教ニ嫁スル

一 三好茂次私ノ一三好方知ヲ凡  
不シカフム松永丞徒味方ニ蒙リ佐間ヲクニ  
公ハトスル一

一 公方御政道悪ヨツテ信長公七ヶ条ヲアラハシ  
諫メラルカワラ信長公ヲキント金ヲ諸国御教出シ玉フ一

一 江別堅田ヲ信長公ヨリ攻ル一 三十四  
上月信長公上洛アリ洛外焼ル一

一 上京ヲ焼ルニ二条ノ御処ヲカコル公方和ヲ乞  
玉フ和義トノヒ信長公飯国セラル一

一 吉野山地下満堂諱論及大和中ヨリ愛下  
江別箕作合道紀別雜賀ニ蟄居ノ一

一 九月一日遊佐一家百余人高屋ニテ切腹ス 三十五  
高野山ノ僧徒和列宇知郡ノ攻入 三十七

一 七月公方又信長公ヲキント思シ立宇治植ノ  
島ニ入セラル

一 京ハ信長公ヨリ村井長門守ヲ所司代ニシ  
カレ畿内近国政事ヲキカシメサル一

一 信長公京中ノ地子銭ヲ赦免ノ一 三十七  
信長公上洛アリ洛中洛外放火ニ条ノ御処ハ  
ヨセラル苗守居ノ人降参植ノ島ニ向ル一

一 公方御託言ニテ出城アリ佐久間木ノ下付ラレ  
河別茂次方ニ送サル  
植ノ島ニ細川公節ヲ入ラカル一江別葉寺ノ人  
城ヲ降参静原城ハ明知攻ヲトス  
七月天正ト改元セラル

一 二月宇知郡敵味對陣愛ヲ和睦ノ一 三十一  
三好茂次泉列植ノ尾ニ指セラル一  
行松カ娘ノ一茂次下昭高高不知ノ一  
ステ鉾植ヲヨク愛タ不請一

一 泉別水間寺ノ一恩照尼カ一  
九月畠山茂則公息男茂春公長尾政景ノ  
カヲ嫁セラル一 三十一

一 三好ノ兵飯盛今里ヲ悉ク引退ク一  
平二郎左内芳知盛永ト改ル一 三十三

一 六月吉野郡ノ引入ニ畠山各庫力換宇知郡  
滝孫太郎ニ扶助ヲ蒙ル一 三十三

一 三好方ノ各今里ニ夜歩シ畠山伊豫守ヲハシメ  
高屋原垣屋木田ヲ削以下悉ク死ノ一

一 同降今茲天正元正月松永不動国行ノ力 三十三  
藥研藤四郎服指信長公進上

一 公方ノ御味方江別堅田石山而ニ要害ヲ一 三十三  
二月信長公柴田丹羽明知蜂屋四人ヲ大将トシ 三十四  
石山ヲ攻ラル一落城柴田ハ京ノ押トメラ  
ル一

一 三月堅田落城ニ城兵二百余人折死  
信長公出馬長岡荒木降参ノ一

一 軍勢陣処ノ一  
御屋形ト遊佐ト不快保田佐久カ一

一 三好カ徒當黒上ノ京放火ノ一  
遊佐一家逆心高屋ノ押寄ス昭高高公折負 三十五  
政慶公ニ自害シ玉一

一 尚誠公并ニ御曹子ノ泉列ニ松殿ノモトハ  
落サル一

一 遊佐一家ヨリ畠山茂敏ヲ高屋ノ城主トシ  
信長公承引ナキ一

一 烏帽子形合戦ノ一  
信長公ヨリ遊退ノ軍勢ヲホサル一 三十七

一 畠山勢ニ処高屋ノ寄ル一 三十七  
信長公淀ノ城ヲセメセラル一 三十八  
落城

一 旗別茨川ノ和田其外池田伊丹悉ク 三十八  
落城ニ信長公ヨリ旗別一圓ニ荒木  
タマハリ根津守トナル



一 公方剃髮マツテ昌山ト号ス若江ヲ出御サツテ

一 紀列ヨリ藝列毛利家ニ身ヲヨセラル

一 三好カ家臣多羅尾池田野間ニ信長公降ル

一 金山武春ヲ殺ス

一 月信長公朝倉義景ヲセシ小泉秀之ヲ

一 祢山ヲ死ス

一 信長公江別ニ發向浅井父子生害ノ

一 木下秀吉越前近江死テ勳ヲヨツテ浅領迄

一 ヲ玉ハル

一 甲斐武田勝頼信長公ニ款對ノ

一 三松殿父祖ノ像ヲエカサレ

一 井戸田切起昇寺ニ戰堂宇悉ク殲滅ス

一 十市遠隆桃尾ノ滝ノ上藤ノ城ニ住ス

一 天正二戊三月信長公冬後任シ後三位ニ叙ス

一 畠山義則公ノ内室逝去上杉謙信ノ姉ナリ

一 四月高野ノ僧徒宇知郡ニ攻入野原落城ノ

一 金剛寺不動ノ

一 坂合部天種ノ

一 御藏退高野惣分宇知郡入

一 畠山少次郎尚誠公頓死ノ

一 畠山義春公氏ヲ上條トカニ又上杉更氏

一 民部少輔トナル

一 同三月四月三好城入道河列小山村ニ住又

一 高屋入信長公高屋寄玉迄在放火

一 作毛ヲ難捨ラル畠山一家モホテ出和列

一 檣列紀列加勢住吉天王寺木津難波

一 フニ陣トル

一 大坂表作毛ヲナギスツル

一 信長公遠里山野末陣迄辺ノ作毛ナギス

一 テラルニ好山城降参ノ

一 新城ノ砦ヲ攻ラルニ落城ス

一 河列城々高屋ヲ始悉ク掃捨ラル

一 八月信長公朝倉餘黨退治ノ

一 信長公權大納言ニ任セラル右大将ヲ兼ラル

一 四月子二月上杉義春公入道シテ入庵ノ

一 四月信長公大坂ヲ攻ラル

一 織田勢大坂ニ寄ル城ヨリ打出信長公後詰

一 木下藤吉元吉佐々木秀之字ヲ乞

一 秀吉ト改ル

一 三好山城守入道信長公ニ降ル

一 高屋没落ノ以後面々心々分知大半ハ

一 信長公ニ降ル

一 昭高公御法名ノ

一 十月高野ノ僧徒和列宇知郡久田野邊ニ

一 入

一 三好政保若江ニ生害ノ

一 十月信長公上洛河列若江三好義次ヲ攻ラル

一 城兵大半ヲ死義次自害ノ

一 能登ノ畠山臣遊佐神保反心主ノ義隆

一 毒害ニ其外郎後ニ堂ニ義隆公ノ一男義則

一 公ヲ追テ固ヲ大集

一 信長公能列征討シテ神保氏治和義シテ

一 信長公ノ妹算トナル其外信長公ニ後

一 越中能登ニ西回ノ

一 義則公志ヲ通ルモノニ義則公息男義春公ト

一 共ニ越後ノ謙信ヲ頼玉

一 謙信先祖ノ

一 葛上郡佐味ノ僧堅弁ノ固田カ

一 九月三松殿高屋ヲ修造セラル

一 畠山昭高具公高屋ニ還入三松又泉列

一 三松ニ退去ノ

一 十月上太子火ニ燒ノ

一 三好山城高屋ヲトラス三松殿高屋ニ

一 カリ玉

一 三好高屋ヲ攻

一 十月高屋落城畠山一族ヲ固ノ道入ル

一 信長公告ル一ノ固ノ

一 五月武田勝頼数万騎ニ長繁城ヲ攻

一 是ニ徳川家ノ臣在任

一 信長公出馬近国ノ勢馳参ル三松殿病身

一 是ヲ恨ル

一 徳川家ノ武田勝頼敗軍甲列ノ曳ク

一 幾内信長公全ク年入大坂計ノカ江列

一 十八ヶ処退治ノ信長公家臣ノ

二月信長公紀州奔向貝塚一揆ノ一 四四

雜賀ノ降人道スカラ城攻ノ一

八月紀州雜賀ノ殘黨ヲコル佐久間ヲカサレ 四五

松永父子大坂向城ヲ引謀反シ志貴ニ

指コモル

三松殿畠山一家信長公ニ謀反シ首木城ニ

指コモル

十月織田信忠公志貴ノ城ニヨセラル 四六

首木城(折手)向落城片岡降参人数

ヲテテ僅ニ六七十人三松殿畠山昭宣公同

河内守皆々討死陰鬼トナリ玉ノ村岡

坂中兩人狂死ノ一三松殿昭宣公首片岡

反シ城ノ元ニ葬ル

三宅自害ノ一

畠山重政三松新九郎改片岡ニ誓居ノ一 四七

片岡弥太郎カ一

三松殿ノ墓ヨリ光気出鳴ル一諸人病惱苦一

三松八幡ト号シ御宇ヲ七社ニ開クニ三松新九郎

宮ノ一司ラシメトキハカキハ祭ル一

七月筒井大坂寄キニ加リ作毛ナキスツル一 四八

信忠公陣陣順慶西国ノ折手

六月惟任丹波ヲ平治ス

六月畠山長門守出羽ノ大宝寺家ニ入ル 四八

同九年己二月馬揃禁裏見詔見ゾナラレ 四九

六月能州七尾城主自害サセラル一

八月信孝公高野山攻ラレ先紀州ニ入田和ノ一 四九

地藏堂陣ニ堂焼失ノ一以勇ニ高野山ニ

攻近ク

畠山ハ高野方ニハアラスト見ユル一

五月信長公安寺ヨリ出馬中国退治ノタメ京都 五〇

本能寺ニ宿陣

惟任愛宕山ニ登諸連哥魚行ノ一

六月惟任逆心ノ一家臣ニ詔一 五〇

二月惟任京都本能寺寄ル信長公ヲ忒

死シ玉ノ寺兵火ノ一

信忠公自害ノ一妙覚寺火ヲカクル一

十月洛西紫野ニ秀吉公一院ヲ立信長公父子ノ 六一

吊ノタメナリ

同土癸未五月筒井卒去万賤殉死ノ一

榑原卒去ノ一

三月鈴木孫市カ城ヲ攻ラレ一 四四

雜賀ノ一降参陣拂佐野ノ要害ニ

津田ト杉坊ヲ入ヲカル一

信長公飯落ノ一

和州今井兵部坊大坂ニ味一揆ス 四五

信長公ヨリ惟任ト筒井ヲ向ラレ寄(夜)打シ

折敗ル一

片岡ノ寄キ志貴ノ城ニ向フ一 四六

志貴ノ城(筒井)ヨリ二百人城中入ル一

落城松永切腹久通多門ヲ死ル一

飯田折死ノ一

志貴ノ寄キ今井ヲ攻ント向兵部惟任カ先手

折ヤブル一

松永方ノ幕下所領没収ノ一 四七

十月安土ヨリ信長公上洛東山鷹野將雁鳥ツレテ

和州越知頼秀ヲトラエテ上ル一

同六月己二月信長公ノ命テ羽柴秀吉播磨ノ

三木ト弑ス一

四月信忠公ヲ大將トシ播磨神吉志方ノ城ヲ

攻ツトス一

同七月己卯五月惟任今井ヲナシシ丹波ニ入 四八

今井ハ大和勢殘ル

同八月辰正月播磨三木長治自害ノ一 四八

別処吉親後子共ノ一辞セリ一

七月大坂光佐ト信長公和後岡城ニテ飯京ノ一

羽柴秀吉播磨ヲタマハル一 四九

并ニ中国ヲタマハル一

今井兵部坊和義ノ一

同十五年正月金剛山炎焼ノ一 五〇

吐田遠秀筒井ト戦筒井偽リ和義ニ

筒井(招カレ)會カ空ニ伏兵シテテ吐田ヲ

亡ス一寫左近ヲ豊田村ニヲク一

惟任山岡ノ方ニ使者ノ一

得川和泉ノ堀ニ有テ信長公ノ生害ヲキ、 五〇

大和(越)遠列ニ飯城ノ一

惟任筒井ト申合スル一筒井八幡ニ折出ル一

羽柴秀吉備中高松攻毛利家秀吉

和義ノ一

秀吉崎(冬)陣惟任折出ル一 六一

筒井裏切リノ一

一 畠山茂昌公入道ノ一庵ト号ス 六十一

一 同二 甲申 月信雄得川ト秀吉ト長久手ニ兵士  
戦フ 六十二

一 十月羽柴冬儀秀吉後三位大納言ニナルニ  
和列今井兵部坊ハ秀吉公ヨリ朱印ヲタ  
マハル 六十三

一 羽柴秀長和列ノ入部郡山ニ新城ス  
十市本領少タマハル 六十四

一 和列皆々秀長意下トナル飯田守人トナル  
西国ニ住ス 六十五

一 二月秀吉公正二位内大臣トナル  
秀吉公紀列雜賀根來退治セラル 六十六

一 高野山禾乃吉公(降参)ノイ  
秀吉公紀列湯川攻秀長命セラル 六十七

一 十月湯川畠山秀長和義ニ振舞毒害ス  
畠山定政同政宣紀列有田宮原ニ住ス 六十八

一 同滿宣如意輪寺ニ住ス  
同十六 戊子 月京大佛堂成就ノイ 六十九

一 六月片岡弥太郎三松社(筋)勇奉納ノイ  
春野彦太郎鉾銀鍬三松社奉納ノイ 七十

一 八月土屋權右門守矢ヲ三松社納ル 七十一

一 片岡平胡録ヲ三松社納ル 七十二

一 同十七 己丑 三月 燈臺大樂寺ヨリ三松社納ル  
畠田村里谷村ノ百姓三松社燈籠獅子頭ヲ  
納ル片岡弥太郎形神人ヲ納ル 七十三

一 八月三松ノ祭頭人数ヲ定ル 七十四

一 同十八 庚寅 正月 朝日ノ君薨去ノイ  
三松社仁王経ノイ 七十五

一 同百度 辰ノイ 三松光政此事ヲ令下ス  
同祭ノイ 七十六

一 北条氏政上洛セラル 七十七

一 三月秀吉公相州由原北条館(押詰)ニ  
四月北条氏規カ 七十八

一 七月小田原落城ノイ 其外数城落ル 七十九

一 會津黒川(関東平治知行割)ノイ  
関東駿馬固得川大納言家康公置セラル 八十

一 秀吉公岩付ニ御哥ノイ 八十一

一 九月秀吉公飯高麗ノ王使ノイ  
文禄元 辰三月三松社桃花祭ノイ 八十二

一 三松重政後妻ノイ 八十三

一 惟任正立寺ニ入又落テ山科辺ニテ百姓ニ  
亦コロサレ 八十四

一 十三 酉月 秀吉公舎弟秀長大紀泉ニテ  
列ノ大守トナル 八十五

一 和列十市氏ハ秀吉公カイエキノイ  
筒井伊賀ニウツル者二人ハ和列ニナル 八十六

一 十四 酉月 片岡三松重政妻ノイ  
朝日前ノイ 秀吉公ノ妹君得川(嫁) 八十七

一 十月得川羽柴中納言ニ任同秀次ノイ  
十二月秀吉公官ノイ 八十八

一 十河戦死ノイ  
同十五 丁亥 二月 畠山美真ノイ 八十九

一 大和納言秀長公官ノイ  
三月秀吉公西征赤間カ関詠哥ノイ 九十

一 二位ノ尼入水ノ哥ノイ  
西国秀吉公(悉)降参ノイ 九十一

一 十月尼寺ノ百姓源々太鼓ヲ三松社  
納ル 九十二

一 五月大和納言秀長公三松社  
参詣 九十三

一 小川左馬久慢一張納ル  
九月三松ノ頭渡シノイ 九十四

一 二月三松ノ社鳴動當職掌人頭  
死スル 九十五

一 土屋駒形ノ神人寄附ノイ  
同十九 辛卯 四月 三松重政妻死ス 九十六

一 大納言秀長公逝去秀俊公相續ノイ  
八月三松社造リアラシム神具ノイ 九十七

一 九月三松社祭式ヲキムル 九十八

一 十二月秀次公関白ニ任ス秀吉公ヲ太閤ト申ス  
秀長公ノ息女ノイ 九十九

一 秀次公栄花ホコリ美女ヲアツメラル 一百

一 同二 癸巳 二月 秀吉公ノ若君ノイ  
九月秀吉公ノ北方淀殿男子誕生ノイ 一百一

一 同三 甲午 二月 秀吉公若野ノ花ヲ遊覧百首御詠哥  
三月長連龍其子三松社参ル 一百二

一 泉列畠山長列入道ヲ訪尋ル 一百三

一 大和中納言吉野川岩飛テ頓ル 一百四

一 其跡絶ス著尾布施十市ハ少本領タマハル郡山増  
右門守一石玉リニテ列ノ代官郡山城外擲ッ付ル 一百五

秀吉公三軒ヲ征セラレ

四月閏白秀次公悪行ノ

一月秀次公悪道ニ付若者共辻切ス是モ

秀次公ハサカレト云

水村町百姓様々ノ事成シ金銀ヲ弁ホリト

四月安房守立頭秀次公ハ近仕ノ

同四月二月得川家康公ニ男岡崎信康生

植村家次流浪ノ身トナリ其後上列大島ニ

テ百石ヲ玉フ

七月秀次公悪逆ヲ秀吉公ヨリセシギアリ

具ミアレ高野山寺僧殿寺ニ入セラレ

秀次公身ノ悪人刑罰ノ

秀次公切腹ノ檢使高野山ノホリ真山寺

切腹ノ

慶長元<sup>丙</sup>申正月家康公内大臣ニ任セラレ

九月大明ノ使來リ秀吉公ニ毎ラスメ

同二月三月神保家康公ノ家トナル

林九郎右門富田左近將監ニ奉公ス

森本庄三郎ハ小堀新次ニ仕フ

三月水村安房等秀次公隱謀ヲ進

ル

六月秀次公北野ヨリ大佛迄兵具ヲ段々

事カメシカリシヲ秀吉公ハキコユル

秀次公北敵山狩ノ北野冬詣ノ

秀次公女姓若君姫君三久河原ニテ

刑罰ノ

筒井ノ家人寫左近和列首上ノ豊田村

任ス伊賀行亦後石田家ニ任

小堀家豊田村ニ任ノ

同三月八月大閤秀吉公ニ死ス

同四月三月家康公夢ニ植村家次ヲ

見玉テ家政ヲ召出サル

秀吉公廟号ヲ豊田大明神ト号ラス



